絶滅危惧Ⅱ類

ミズニラ

ヒカゲノカズラ植物・ミズニラ目
ミズニラ科

Isoetes japonica A.Braun

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
19	現存	8
	不明	1
	絶滅	10

県内分布状況

評価理由

19地点中8地点で生育が確認された。管理放棄（耕作放棄）や圃場整備、農薬汚染により現在も減少傾向にある。

主な危険要因

管理放棄、土地造成（圃場整備）、農薬汚染

現存する生育地の多くは水田やその周辺部で、管理放棄（耕作放棄）により衰退・消失する場合が多い。圃場整備により失われた生育地も多い。

特記事項

県南東部の低地ではほぼ絶滅し、残る産地は中山間地の谷津田や棚田である。高齢化･過疎化に伴う管理放棄（耕作放棄）が急速に進行し、衰退傾向にある。一方、耕作が再開されると再び発生する例もあり、休眠胞子の寿命は長いと考えられる。

ハマハナヤスリ

シダ植物・ハナヤスリ目
ハナヤスリ科

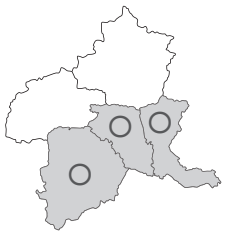
Ophioglossum thermale Kom.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
6	現存	5
	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況



評価理由

6地点中5地点で生育が確認された。1地点の分布面積は通常小さい。人間の活動域に接して生育するため開発や工事の影響を受けやすい。

主な危険要因

湿地開発、自然遷移、河川開発

河川敷内の整備や造成工事などの影響を受けやすい場所に生育する。また、低茎の植物のため、ヨシやオギなどの群落に遷移すると消失する。

特記事項

過去10年間に、過去に記録のない地域からの発見が相次いだ。分布拡大傾向にあるか、調査機会の増加や一般の関心が高くなったために見過ごされてきた生育地がみつかっただけかは判断が難しい。

チチブホラゴケ

シダ植物・コケシノブ目
コケシノブ科

Crepidomanes schmidtianum (Zenker ex Taschner) K.Iwats.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数		
11	現存	10
	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

10地点で生育が確認されているが、分布する地域が限られる。生育環境はやや安定している。

主な危険要因

道路工事、特殊分布

山間部における道路や付帯施設の工事が減少の主な要因と考えられる。

特記事項

シシラン

シダ植物・ウラボシ目
イノモトソウ科

Haplopteris flexuosa (Fée) E.H.Crane

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
4	現存	4
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

4地点で生育が確認されているが、分布域は狭い。株数は多いが、伐採や工事とともに災害に伴う環境変化により減少する可能性もある。

主な危険要因

森林伐採、その他（災害）、道路工事

森林伐採や山間部の道路工事、崩落防止工事により絶滅する危険性がある。豪雨に伴う沢の荒廃による環境変化も想定される。

特記事項

空中湿度が高い環境を好むシダである。災害等によって沢の環境が変化し、衰退することも危惧される。

ナヨシダ

シダ植物・ウラボシ目
ナヨシダ科

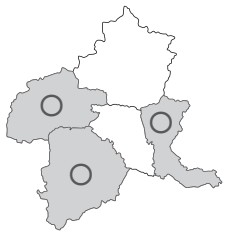
Cystopteris filix-fragilis (L.) Bernh.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
5	現存	5
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

5地点で生育が確認されているが、いずれの地点も株数が少ないか、生育地の破壊が懸念される場所にある。

主な危険要因

道路工事、自然遷移、その他（石垣改修）

4地点では株数が少なく、上層木や周辺の草本の成長により衰退する可能性がある。残り1地点では道路工事により生育地が破壊されることが考えられる。

特記事項

人工物のすき間に生育している地点では、近年競合するトラノオシダが増加する傾向にあり、今後の推移が注目される。吾妻地域の別荘地内には広く分布している可能性は高く、分布地点数は過小評価と思われる。

シモツケヌリトラノオ

シダ植物・ウラボシ目
チャセンシダ科

Asplenium boreale (Ohwi ex Sa.Kurata) Nakaike

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
8	現存	6
	不明	1
	絶滅	1

県内分布状況

評価理由

6地点で生育が確認された。まとまって生育することが多いが、急傾斜地や崖に関係する工事の影響などで減少している。

主な危険要因

その他（崩落）、道路工事、その他（植林）

砂防工事や崩落防止工事が最大の危険要因である。加えて、植林樹の被陰により衰退した生育地もある。

特記事項

極端に乾燥する岩の隙間に生育することが多いため、もともと極度の乾燥の影響によって枯死することがある。

キンモウワラビ

シダ植物・ウラボシ目
キンモウワラビ科

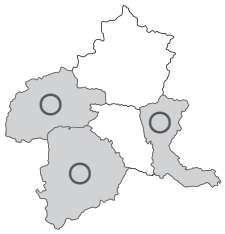
Hypodematium crenatum (Forssk.) Kuhn subsp. *fauriei* (Kodama) K.Iwats.

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧II類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧II類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
54	現存	42
	不明	2
	絶滅	10

県内分布状況



評価理由

54地点中42地点で生育が確認された。ただし、全体的には道路工事や除草剤散布を含む除草作業などにより個体数が減少している。

主な危険要因

道路工事、その他（石垣改修）、農薬汚染

道路工事、石垣改修、除草によっても減少している。分布域では分布地点数が多く、単なる石垣の雑草として扱われる場合が多い。

特記事項

本県は全国的にみて特異的で、分布地点も残存株数も多い県である。それゆえ、本県での保全状況が本種の全国的な絶滅リスクの変動に直結すると考えられる。

オゼコウホネ

種子植物・スイレン目
スイレン科

Nuphar pumila (Timm) DC. var. *ozeensis* H.Hara

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧II類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧II類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
2	現存	2
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

尾瀬の2湿原から過去10年以内に生育が確認された。尾瀬ヶ原では継続的に減少しているが、その原因は不明である。

主な危険要因

自然遷移、分布限界、特殊分布

国立公園内に生育し、園芸採取は考えにくい。ニホンジカが増加する以前から減少傾向にあり、減少理由の特定は難しい。

特記事項

オゼコウホネが生育する池塘の数は、1970年代から1990年代の間に22%、その後も2012年までに7.8%減少した（金井 2002、大森 2014）。その原因としては、分布拡大傾向にあるヒツジグサとの競合が考えられるが、詳しくはわかっていない。尾瀬の一部に移植され現存している事例もある。

ウリカワ

種子植物・オモダカ目
オモダカ科

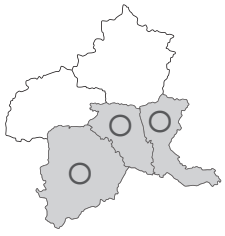
Sagittaria pygmaea Miq.

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧II類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
11	現存	9
	不明	0
	絶滅	2

県内分布状況



評価理由

9地点で生育が確認された。近年新たに見つかった生育地も複数存在するが、水田雑草の特性上、個々の産地の生育基盤は脆弱である。

主な危険要因

土地造成（圃場整備）、農薬汚染、管理放棄

耕作中の水田においては圃場整備や除草剤散布が最大の危険要因である。

特記事項

水田雑草のため、消長は管理に依存する。平野部の都市近郊の水田に生育するため、管理放棄よりは農地集約化のための圃場整備の方が脅威となる。

ミズオオバコ

種子植物・オモダカ目
トチカガミ科

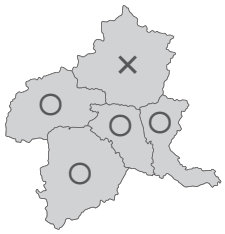
Ottelia alismoides (L.) Pers.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
33	現存	21
	不明	3
	絶滅	9

県内分布状況



評価理由

33地点中21地点で生育が確認された。平野部では分布域の分断化が目立つ。山間部では管理放棄により平野部以上に減少が著しい。

主な危険要因

農薬汚染、管理放棄、土地造成（圃場整備）

平野部での大規模な圃場整備に加え、棚田の管理放棄や除草剤の使用が危険要因としてあげられる。

特記事項

本県では平野部、中山間地いずれにも出現する。直近10年間では、管理放棄が著しい中山間地での消失が目立っている。

イトモ

種子植物・オモダカ目
ヒルムシロ科

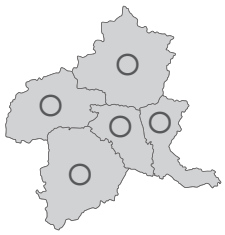
Potamogeton berchtoldii Fieber

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量 D

産地数		
20	現存	12
	不明	3
	絶滅	5

県内分布状況



評価理由

12地点で生育が確認された。比較的広く分布する種であるが、生育地点数は緩やかな減少傾向にある。

主な危険要因

池沼開発、管理放棄、動物食害（シカ以外）

ため池改修のほか、管理放棄、放流されたコイによる食害により減少している。過去に水田やゴルフ場からの除草剤の流入により消失した生育地もある。

特記事項

同一地域または支流域に存在する集団は、遺伝的交流があるとみなし、同一地点扱いとして集計したため、県レッドデータブック（2012）に比べ生育地点数が見かけ上減少している。農耕地周辺では時に大発生することもあり、発生状況はやや不安定である。

ササバモ

種子植物・オモダカ目
ヒルムシロ科

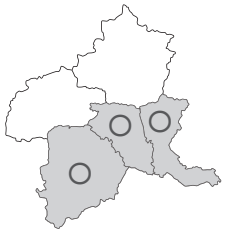
Potamogeton wrightii Morong

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
16	現存	13
	不明	0
	絶滅	3

県内分布状況



評価理由

15地点中13地点で生育が確認された。河川などの開発により消失する場合がある。時に川幅全体に繁茂することがあるが個体数変動は不安定である。

主な危険要因

河川開発、道路工事、その他（除草）

平野部の河川・水路が主な生育地のため、河川改修や道路工事などによって生育地が消失する場合が多い。繁茂すると除草の対象となる。

特記事項

過去に記録のないため池で大発生することがある。自然分布以外に放流魚とともに侵入したものがある可能性があるため、注意が必要である。

オゼソウ

種子植物・サクライソウ目
サクライソウ科

Japonolirion osense Nakai

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
16	現存	16
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

16地点で生育が確認されたが、これらは既知の2つの山域に属する。一部の生育地では園芸採取や踏み付け、さらに登山道の崩壊により減少している。

主な危険要因

園芸採取、踏み付け、特殊分布

保護体制が整った場所に生育するにもかかわらず、園芸採取が発覚する場合がある。複数の大規模な生育地は登山道脇の土砂流失の影響を受けている。

特記事項

登山道が通る生育地はすべて国立公園内にある。過去には踏み付けにより生育地の破壊が進行したが、近年は踏み込み防止や土砂流出対策が徹底されてきた（尾瀬地域）。一方では登山者の増加で踏みつけの度合が高まった集団もある（谷川地域）。

マルバサンキライ

種子植物・ユリ目
サルトリイバラ科

Smilax stans Maxim.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	準絶滅危惧
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
17	現存	15
	不明	2
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

15地点から約200個体が確認された。接近困難な岩棚等にも生育し、株数は過小評価と考えられる。一方でニホンジカ食害により減少傾向にある。

主な危険要因

動物食害（シカ）、その他（登山道整備）

ニホンジカの嗜好性が高く、西部地域では衰退し、矮小化が顕著である。

特記事項

2018年改訂版レッドリスト準絶滅危惧。残存成熟個体が数1000個体単位になるとは考えにくく、また、ニホンジカによる食害を考慮し、絶滅危惧Ⅱ類にランクを引き上げた。

アマナ

種子植物・ユリ目
ユリ科

Amana edulis (Miq.) Honda

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数		
19	現存	11
	不明	7
	絶滅	1

県内分布状況

評価理由

19地点中11地点で生育が確認された。いくつか群生地もあるが、全体的にはイノシシやニホンジカによる食害などにより減少傾向にある。

主な危険要因

動物食害※、土地造成（その他）

遷移進行や園芸採取以上にイノシシやニホンジカによる食害が深刻な状況にある。一部は公園・駐車場等の造成により消失した。

特記事項

1地点では保護されている。直近10年間に動物食害や掘り返しが顕在化してきた。特にイノシシの場合、群生地を一気に掘り起こすため、ダメージが大きい。

※動物食害：ニホンジカ、イノシシ

ホソバノアマナ

種子植物・ユリ目
ユリ科

Lloydia triflora (Ledeb.) Baker

評価理由	24地点中19地点で生育が確認された。大規模な生育地も存在するが、ニホンジカ食害により直近10年間で開花個体数の明らかな減少がみられた。
主な危険要因	動物食害（シカ）、踏み付け、土地造成（その他） ニホンジカの食害が直近10年間の最大の減少要因である。このほか登山者や観光客による踏み付けや、観光目的の開発も脅威となる。
特記事項	総個体数に比べて開花個体が極端に少ない個体群構造をとる。加えて食害に伴う開花個体数の減少は顕著で、開花個体がみられない生育地も出始めている。種子繁殖に支障を来す状態にあると考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	準絶滅危惧
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
24	現存	19
	不明	5
	絶滅	0

県内分布状況

コアニチドリ

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Amitostigma kinoshitae (Makino) Schltr.

評価理由	6地点中4地点で生育し、2地点で絶滅が確認されている。絶滅の2地点は自然遷移によることが考えられるが、観光客による園芸採取の可能性も高い。
主な危険要因	園芸採取、自然遷移 株数はいずれの地点も少数で、園芸採取は絶滅に直結する。
特記事項	赤城山から1953年で採集された標本（GMNHJ-BS-52439）があるが、その生育地は絶滅した。現存確認地点は国立公園や自然環境保全地域内にある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定性

産地数		
6	現存	4
	不明	0
	絶滅	2

県内分布状況

エビネ

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Calanthe discolor Lindl. var. *discolor*

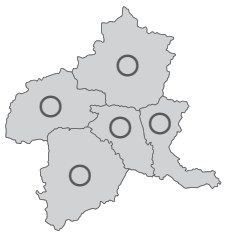
評価理由	61地点中42地点で生育が確認された。大規模な生育地が今回発見されたが、大部分の生育地の個体数は5以下である。全体として園芸採取により減少している。
主な危険要因	園芸採取、管理放棄、土地造成（ソーラー） 管理放棄によって劣化した生育地もあるが、現在でも見つかり次第採取される状況が続いている。分布域は多くの太陽光発電施設が立地している。
特記事項	本種を含むエビネ属は1980年代の野生蘭ブームの代表格で、その頃大量に採取された。今回大規模な生育地も確認されたが、見つかると根こそぎ採取される危険性が高い。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
61	現存	42
	不明	9
	絶滅	10

県内分布状況



ギンラン

種子植物・キジカクシ目
ラン科

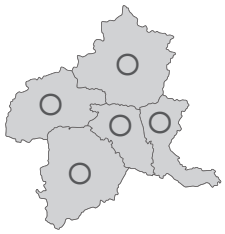
Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *erecta*

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
62	現存	44
	不明	12
	絶滅	6

県内分布状況



評価理由

62地点中44地点で生育が確認された。ただし、いずれの地点でも個体数は少なく、また、3地点で10年の間に絶滅が確認された。

主な危険要因

園芸採取、管理放棄、動物食害（シカ）

園芸採取される危険性が非常に高い。里山林に生育するため、その管理放棄と開発により甚大な影響を受けたと考えられる。

特記事項

花の唇弁が他の花被片と同一の形態になる品種ヤビツギンラン f. *pelorica* Hiros.Hayak. et Suetsugu が近年認識された。今回の評価対象はヤビツギンランを含めた。なお、ヤビツギンランはギンランよりもクゲヌマラン（絶滅危惧ⅠA類：90ページ）と誤って同定されることが多い。

サイハイラン

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Cremastra appendiculata (D.Don) Makino var. *variabilis* (Blume) I. D.Lund

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	準絶滅危惧
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
74	現存	56
	不明	12
	絶滅	6

県内分布状況

評価理由

74地点中56地点で生育が確認された。ただし、地点あたりの株数は少ない場合がほとんどである。園芸採取や伐採によって減少傾向が続いていると考えられる。

主な危険要因

園芸採取、動物食害（シカ以外）、森林伐採

森林伐採、園芸採取が二大減少要因と考えられる。工事によって生育地が消失する場合もある。近年イノシシによる掘り返し被害も確認されつつある。

特記事項

近年公共工事による事前調査によって新たに記録される場合が多い。今まで認識されてこなかった地域で記録されることがあり、工事や伐採を行う場合は事前の調査が必要である。

シュンラン

種子植物・キジカクシ目
ラン科

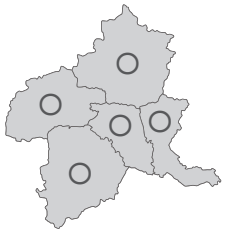
Cymbidium goeringii (Rchb.f.) Rchb.f. var. *goeringii*

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	準絶滅危惧
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
93	現存	82
	不明	6
	絶滅	5

県内分布状況



評価理由

93地点中82地点で生育が確認された。ただし、地点あたりの株数は少ない場合がほとんどである。高い採取圧がかかり、連続的に減少していると考えられる。

主な危険要因

園芸採取、管理放棄、土地造成（ソーラー）

園芸採取による減少リスクが非常に高い。アズマネザサの侵入、管理放棄や太陽光発電施設の設置によっても減少したと考えられる。

特記事項

かつては県内では普通種であったと推定されるが、現在県内のまとまった生育地はまれである。ほとんどの生育地は数個体程度で、大株がみられない場合が多い。これは園芸採取の結果と考えられる。調査中にも盗掘跡を見つけることや、地元住民からの盗掘情報を聞くこともあった。

タシロラン

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Epipogium roseum (D.Don) Lindl.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量 D

産地数		
4	現存	4
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

4地点のみで生育が確認された。1地点の個体数は比較的多い。真菌類に依存して生活するランで、緑葉をもたないため年により花茎の出る数に多寡がある。

主な危険要因

自然遷移、動物食害（シカ以外）、踏み付け

生育地はよく整備され、人目も多い。新たな施設や歩道の設置などにより生育地の一部が失われる危険性がある。一部アズマネザサの侵入がある。

特記事項

現在の状態が継続されれば生育が困難な状況には至らない。立ち入り禁止区域や柵によって守られているところもある。多くは歩道から外れたところに生育し、立ち入る者も少ない。

ミヤマウズラ

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Goodyera schlechtendaliana Rchb.f.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 A

産地数		
59	現存	49
	不明	6
	絶滅	4

県内分布状況

評価理由

59地点中49地点で生育が確認された。大半の生育地は小規模で、園芸採取などによって減少傾向にあると考えられる。

主な危険要因

園芸採取、自然遷移、動物食害（シカ以外）

集団サイズの縮小が目立つ。明らかに園芸採取の影響と思われる。ニホンジカの分布拡大に伴い、生息域を移動したカモシカの食害を受けた集団もある。

特記事項

近年公共工事による事前調査によって新たに記録される場合が多い。直接工事の影響を受ける場合、通常移植措置がとられる。県内のいくつかの移植地の経過をみる限り、ラン科の中では移植後の活着率は高い。

ミヤマモジズリ

種子植物・キジカクシ目
ラン科

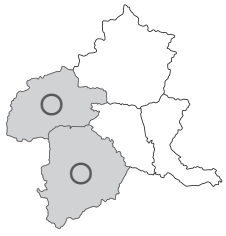
Neottianthe cucullata (L.) Schltr.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠA類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
16	現存	13
	不明	2
	絶滅	1

県内分布状況



評価理由

16地点中13地点で生育が確認された。保護対策がとられていない生育地が多く、園芸採取が後を絶たない。一部産地はリゾート開発の影響を受けた。

主な危険要因

園芸採取、土地造成（その他）、道路工事

花期になると人目につきやすく採取される危険性が高い。一部地域では道路工事やリゾート開発に伴う造成により生育地が失われた。

特記事項

吾妻地域と西部地域では生育環境や、置かれている社会的な状況が大幅に異なり、地域特性に合った保全対策が望まれる。

ミズチドリ

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Platanthera hologlottis Maxim.

評価理由

20地点中15地点で生育が確認された。県北部ではまとまった個体数をもつ生育地がある一方で、平野部では絶滅寸前の状態にある。

主な危険要因

湿地開発、動物食害（シカ）、園芸採取

平野部では湿地開発や富栄養化による遷移進行、北部ではニホンジカによる植生破壊が園芸採取とともに減少要因となっている。

特記事項

保護体制が整った尾瀬に複数の生育地が存在することが相対的に絶滅リスクを下げてきたが、現在は尾瀬へのニホンジカの侵入によって低層湿原表面の攪乱が起こり、減少傾向にある。平野部の湿原は保護策がとられても、すでに回復の見込みがない状態である。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	準絶滅危惧
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
20	現存	15
	不明	3
	絶滅	2

県内分布状況

トキソウ

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Pogonia japonica Rchb.f.

評価理由

17地点中10地点で生育が確認されたが、尾瀬以外では危機的な状態にある。大部分が尾瀬に残存すると言っても過言ではない状態である。

主な危険要因

園芸採取、湿地開発、自然遷移

過去には湿地開発や自然遷移によって減少したが、近年の減少はほとんどが園芸採取によるものである。

特記事項

北部多雪地の雪田や稜線部の湿原に生育し、本種やヤマトキソウと同定されたものは近年新種記載されたミヤマトキソウである。トキソウの園芸採取は現在も続き、今回調査を行った数日後に再調査したところ、1株残らず採取された事例もあった。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
17	現存	10
	不明	1
	絶滅	6

県内分布状況

ヒメシャガ

種子植物・キジカクシ目
アヤメ科

Iris gracilipes A.Gray

評価理由

生育地点数が比較的少ないことが確認され、一部では絶滅していた。

主な危険要因

園芸採取、踏み付け、自然遷移

販売目的で採取される危険性が高い。また、生育地は登山による踏み付けを受けやすいか、他の草本の繁茂で光環境が悪化しやすい。

特記事項

地下茎による栄養繁殖で個体数の増殖は望めるが、種子繁殖については未知数である。保護増殖にあたっては、遺伝的多様性が低下しないよう、種子繁殖の確保に十分配慮する必要がある。一部の生育地点で台風による個体群の大規模流亡が確認されたため、今後モニタリングを続ける必要がある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
17	現存	13
	不明	3
	絶滅	1

県内分布状況

ノカンゾウ

種子植物・キジカクシ目
ワスレグサ科

Hemerocallis fulva L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta

評価理由

48地点中39地点で生育が確認された。まとまった株数が生育する場合もあるが、近年確認できなくなった地点もあるなど、全県的に減少している。

主な危険要因

その他※、管理放棄、動物食害（シカ）

草地の管理放棄や同属のヤブカンゾウとの競合が減少の大きな要因である。集落から遠い場所ではニホンジカによる食害も発生している。

特記事項

里地の農耕地周辺、低地の河畔、山地の草原と本県における本種の生育環境は全く関連性がない場合が多い。ある地域の固定観念で判断すると、別の地域の実情に合致しない保護対策を導き出しかねないため注意が必要である。

※その他：同属種（ヤブカンゾウ）との競合

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅱ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
48	現存	39
	不明	0
	絶滅	9

県内分布状況

タマミクリ

種子植物・イネ目
ガマ科

Sparganium glomeratum (Beurl. ex Laest.) L.M.Newman

評価理由

11地点中7地点で生育が確認された。大規模な産地にニホンジカやイノシシが侵入している。生育地のほとんどは国立公園内である。

主な危険要因

動物食害（シカ、シカ以外）

尾瀬ヶ原の河川内には2020年、イノシシのものとみられる食害跡が確認された。また、別の地点ではニホンジカの掘り返しが確認された。

特記事項

山地生の種で、東部地域からの記録は疑わしい。現存するすべての生育地は国立公園か天然記念物指定地域にある。浮葉形の変種ホソバタマミクリは解析から除外した。なお、ホソバタマミクリは生育環境が安定し、群馬県のミクリ属の中で突出して生育地点が多いため、絶滅リスクはほぼないものと考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量 C

産地数		
11	現存	7
	不明	3
	絶滅	1

県内分布状況

ヒメミクリ

種子植物・イネ目
ガマ科

Sparganium subglobosum Morong

評価理由

7地点中3地点で生育が確認された。平野・丘陵の分布地点ではすでに絶滅したが、山地でまとまった生育地が残されている。

主な危険要因

動物食害（シカ、シカ以外）、池沼開発

池沼の水位調節が最大の脅威である。ニホンジカやイノシシが生育地に侵入しているが。水生植物である本種への加害状況は未知数である。

特記事項

平野部・丘陵における絶滅要因は水質汚濁、湖沼岸の改修や公園造成、湧水の減少である。本種の絶滅リスクは、平地性のミクリとタマミクリの間に位置づけられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量 D

産地数		
7	現存	3
	不明	3
	絶滅	1

県内分布状況

ホシクサ

種子植物・イネ目
ホシクサ科

Eriocaulon cinereum R.Br.

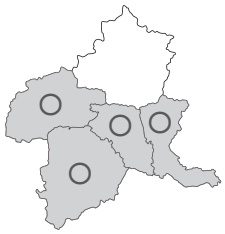
評価理由	21地点中17地点で生育が確認された。多数株が発生する地域もあるが、生育環境が水田に限定される。生育基盤が不安定であり。近年絶滅した地点もある。
主な危険要因	農薬汚染、管理放棄 現存生育地は90%以上水田である。除草剤散布とともに中山間地を中心とした管理放棄も大きな減少要因である。
特記事項	水田雑草のため、消長は管理に依存する。中部地域の大きな分布域では、大規模ショッピングセンター建設計画があり、その開発に伴い消滅する水田もある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
21	現存	17
	不明	2
	絶滅	2

県内分布状況



ハライヌノヒゲ

種子植物・イネ目
ホシクサ科

Eriocaulon miquelianum Koern. var. *ozense* (T.Koyama) Miyam.

評価理由	6地点で生育が確認されたが、これらは同一地域にある。小集団を作って生育する場合が多く、人の立ち入りがない場所にも多い。
主な危険要因	分布限界、自然遷移 尾瀬は南限。ホシクサ属の中ではやや遷移が進んだ場所やミズゴケの間にも生育するが、遷移により消失する点は同属の他種と同様と考えられる。
特記事項	他のホシクサ科同様攪乱を受けた場所で急速に個体数を増加した後、遷移の進行とともに2～3年程度で消失する場合が多い。現在の尾瀬ではニホンジカによる泥炭表面の攪乱により増加している状態で、ニホンジカの影響が排除されると減少すると見込まれる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	情報不足
環境省（2020）	絶滅危惧ⅠB類

判定基準	定量D

産地数		
6	現存	6
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

ジョウロウスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex capricornis Menish. ex Maxim.

評価理由	8地点中7地点で生育が確認された。個々の生育地の面積は小さく、遷移とともに消失することが多い。湿地や沼岸の開発によって大きな影響を受けてきている。
主な危険要因	湿地開発、池沼開発、自然遷移 平野部の湿地に分布が限られるため、開発の影響を受けやすい。このような場所への廃棄物や土砂の不法投棄によって生育地が埋没することもある。
特記事項	県内では分布域が極めて狭い上に、都市近郊に限定される点に留意する必要がある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
8	現存	7
	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況

ヌマアゼスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex cinerascens Kük.

評価理由	6地点中5地点で生育が確認された。分布は局地的だが大規模な生育地もある。平野部の湿地や池沼の開発により生育地が消失した。
主な危険要因	湿地開発、池沼開発、自然遷移 過去に低地の湿地や池沼周辺が農地化・公園化され減少したと考えられる。今後も同様のリスクがあると考えられる。
特記事項	アゼスゲとの区別が難しいため、長らく分布の詳細が不明であった。県内での分布域は非常に狭い。アゼスゲと接して分布することもあり、工事などにあたっては細心の注意が要求される。多々良沼では、ヌマアゼスゲの谷地坊主が見られる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	情報不足
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
6	現存	5
	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況

クジュウツリスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex kujuzana Ohwi

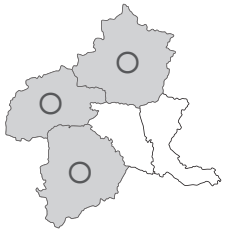
評価理由	13地点で生育が確認された。根茎で広がるため生育地は大規模な場合もある。今回ニホンジカの食害によって開花個体の著しい減少が確認された。
主な危険要因	管理放棄、動物食害（シカ）、自然遷移 春先のニホンジカの重要な餌植物になっている。ニホンジカがいない地域では草地や雑木林の管理放棄によって減少している地点もある。
特記事項	今回の調査でも開花個体数は400以上を数え、非開花株を含めると数千～1万パッチと見積もられる。ただし、ニホンジカの食害により急速に衰退していることは事実である。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	準絶滅危惧
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
17	現存	13
	不明	0
	絶滅	4

県内分布状況



チュウゼンジスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex longerostrata C.A.Mey var. *tenuistachya* (Nakai) Yonek.

評価理由	5地点で生育が確認された。大規模なパッチを作る生育地では被陰により開花数が少ない。それ以外の生育地は小規模だが安定している。
主な危険要因	土地造成（その他）、その他（植林） 最大の生育地はカラマツ植林による被陰が著しい。1地点では生育地の大半が別荘地になった。このほか登山者による踏み付けが目立つ生育地もある。
特記事項	県内のものは、匍匐茎をもつ点でチュウゼンジスゲにまとめて解析したが、花茎や葉裏のざらつき方、結実のしやすさで2型があり、それぞれ別の分類群に属する可能性がある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
6	現存	5
	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況

タカネハリスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex pauciflora Lightf.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅱ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数	現存	6
7	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況

評価理由

7地点中6地点で生育が確認されたが、それらは同一の山系にある。一時期踏み付けによって減少したが、前回の調査時からは変化がない。

主な危険要因

特殊分布、分布限界、踏み付け

生育地点はやや特殊な場所にあり、特定の植生に依存するため、脆弱性が高いと考えられる。踏み付けに対しては一定の対策がとられている。

特記事項

本県の生育地が分布の南限である。生育地は国立公園内にある。湿原の踏み付けによって生育地の裸地化が進んだが、木道整備によって対策がとられて生育状況は安定した。

ユキグニハリスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex semihyalofructa Tak.Shimizu

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	4
4	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

4地点で生育が確認された。1地点に大規模な集団がある以外は少数個体のみか、断続的な集団である。生育環境は不安定である。

主な危険要因

踏み付け、特殊分布、自然遷移

湿った攪乱地を好むため、登山道沿いのぬかるみにみられる。このためよく踏み付けられる。人為の影響のない場所では、遷移の進行により消失する可能性もある。

特記事項

今回の調査で500個体からなる集団が確認されたためランクを修正した。登山者やシカによって踏み付けられる反面、靴や蹄の裏に付着して種子が散布される側面もあると考えられる。

センダイスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

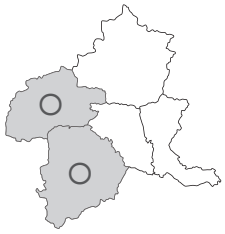
Carex sendaica Franch.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	5
5	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

5地点で生育が確認された。100本単位で花茎を出している集団もあるが、大半の集団は小規模である。人間活動の影響を直接受け、生活基盤が脆弱である。

主な危険要因

管理放棄、土地造成（その他）、その他（除草）

人間の活動域に生育するため、公園造成などの工事や除草、さらに隣接する農地の耕作放棄などの影響を受ける。

特記事項

公園や駐車場の管理のため、刈り取られ、芝草のようになっている場所もある。都市に近い場所によく出現し、本県では都心部に残存していることさえある。

クモマシバスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex subumbellata Meinsh. var. *verecunda* Ohwi

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数	現存	7
7	不明	0
	絶滅	0

評価理由

2山域の7地点で約350個体が確認された。調査困難な場所にも多くの株が生育していると考えられる。一方、休憩や食事のために踏みつけが深刻な地点もある。

主な危険要因

踏み付け、特殊分布、自然遷移

登山道脇の、よく踏みつけられる場所や、休憩ポイントに生育することがある。このため、踏み出し防止ロープ設置などの対策が望まれる。

特記事項

2018年改訂版レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。生育地はすべて国立公園特別保護地区内にある。

県内分布状況

モエギスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex tristachya Thunb.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数	現存	6
6	不明	0
	絶滅	0

評価理由

6地点から約500個体が確認された。林縁などやや日当たりがいい環境を好むため、遷移進行とともに衰退することが多い。

主な危険要因

踏み付け、自然遷移、管理放棄

生育地点はすべて丘陵地や里山、平地林に位置し、開発や遷移の影響を受けやすい。また、路傍に生育することも多く、踏み付けられやすい。

特記事項

直近10年間で増加した地点、衰退した地点いずれも存在し、集団の動態は不安定であると考えられる。東部では戦国時代築堤の土塁上に群生しているため安定して生育している。

県内分布状況

ヌイオスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Carex vanheurckii Müll.Arg.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数	現存	2
2	不明	0
	絶滅	0

評価理由

2地点で生育が確認され、クローン成長による面的な群落も確認された。分布面積は10年前の回復傾向から維持されている。

主な危険要因

特殊分布、踏み付け

生育環境が限定されることに加え、踏み付けによって一時期群落が荒廃した。

特記事項

登山道整備に伴い、荒廃地をロープによって規制したところ分布面積が増加した。高山風衝草原の構成種の中では先駆種的な面があると思われる。

県内分布状況

カンエンガヤツリ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Cyperus exaltatus Retz. var. *iwasakii* (Makino) T.Koyama

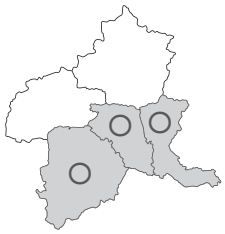
評価理由	14地点で生育が確認された。一部を除いて株数が少ない生育地が多い。遷移初期に出現するため、生育状況は不安定である。
主な危険要因	自然遷移、河川開発、その他（災害） 生育地が平野部に限定されるため、河川改修の影響を受けやすい。また、遷移初期に発生する種のため、遷移が進行すると消失する。
特記事項	生育地の多くは大河川の低水敷にある。このため多くの生育地が令和元年台風第19号により流出したと考えられる。地点数は1地点を除き2019年までの調査結果をもとにした。最上流域の生育地はこの台風後の生育が確認されたため、下流域への種子散布は継続されると考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅱ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量D

産地数		
14	現存	14
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



ヤマイ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Fimbristylis subbispicata Nees et Meyen

評価理由	20地点以上から採集記録があるにもかかわらず、3地点からのみ生存情報が得られた。ただし数100個体規模の生育地も存在する。
主な危険要因	管理放棄、土地造成（圃場整備）、湿地開発 主に農耕地や中山間地の未舗装道路に生育する。このため、管理放棄による衰退のほか、大規模な圃場整備に伴う生育地の破壊が減少要因と考えられる。
特記事項	目立たない植物でよく見逃されるため、他にも現存する生育地はあると考えられる。ただし、過去の採集地点数に比べて調査期間内での報告が極端に少ないことから、減少率が高い種であることには違いないと考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
23	現存	3
	不明	14
	絶滅	6

県内分布状況

コマツカサススキ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Scirpus fuirenoides Maxim.

評価理由	15地点中7地点で生育が確認された。湿地開発や遷移に加え野生動物の攪乱によって生育地の環境悪化が継続している。
主な危険要因	湿地開発、池沼開発、動物食害（シカ以外） 人里に近い湿地の場合、湿地の開発や遷移により消失している。また、イノシシの侵入により掘り起こされた生育地も複数存在する。
特記事項	消失または衰退した生育地がある一方で、今回大規模な生育地が水田の管理放棄により出現した。このほか、2014年頃東部地区の湿地掘り下げ区に多量に生育が始まり定着している。これらのことから、今回絶滅危惧Ⅱ類とされた。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
15	現存	7
	不明	4
	絶滅	4

県内分布状況

ヒメマツカサススキ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Scirpus karuisawensis Makino

評価理由

11地点中10地点で生育が確認されたが、大発生した後遷移とともに衰退することが多く、個体数変動が不安定である。

主な危険要因

管理放棄、動物食害（シカ以外）、道路工事

遷移初期に侵入する種のため、遷移が進むと減少する。イノシシによる掘り返しが起きている生育地や道路工事計画地域にある生育地もある。

特記事項

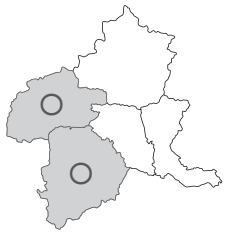
新たに休耕田一面に密生した地点も確認された。このような場所ではイノシシでさえ侵入しない。ただし、管理放棄が進めばヤナギ林に遷移し、消失すると考えられる。このように遷移の段階により増減がみられる。生育地の2地点は道路建設の計画がある地区にある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
11	現存	10
	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況



タカネクロスゲ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Scirpus maximowiczii C.B.Clarke

評価理由

7地点で生育が確認された。生育環境が特殊で分布域は狭いが、数百株に及ぶ生育地もある。一部では登山者の踏み付けがある。

主な危険要因

特殊分布、踏み付け、自然遷移

生育環境が限定され、脆弱性が高いと考えられる。一部の生育地は登山者の立ち入りによる踏み付けの影響がある。

特記事項

生育地の大部分は国立公園内にある。過去の登山道荒廃地でも直近10年間は回復傾向にある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量D

産地数		
7	現存	7
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

マツカサススキ

種子植物・イネ目
カヤツリグサ科

Scirpus mitsukurianus Makino

評価理由

6地点中5地点で生育が確認された。分布が1地域に限られる。過去10年間は自然遷移や開発による減少が、水田の耕作放棄に伴う侵入によって相殺された。

主な危険要因

湿地開発、管理放棄、自然遷移

富栄養化や乾燥化により生育地がヨシやオギの群落に遷移し、消失した場所が多い。また農村域に分布が集中し、開発の影響を受けやすい。

特記事項

水田の管理放棄によって一時的に増加することがある。ただし、管理放棄が継続すると大型草本やハンノキ、ヤナギなどの樹林に遷移し、結果的に衰退すると考えられる。ボランティア団体が公園の管理区域で自生を保護している。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
6	現存	5
	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況

セトガヤ

種子植物・イネ目
イネ科

Alopecurus japonicus Steud.

評価理由

6地点中5地点から確認され、うち2地点は大規模な集団である。農耕地やその周辺に生育する種のため、管理依存の側面があり、生育基盤は脆弱と考えられる。

主な危険要因

管理放棄、農薬汚染、池沼開発

低湿地や水田に生育する雑草的な草本である。そのため、開発により生育地が消失することに加え、管理放棄や除草剤の使用も減少要因になる。

特記事項

2018年改訂版レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。株数の変動が大きい生育地が多く、株数や増減の把握が難しい。水田一面に発生する地点も管理放棄により全てが失われる可能性がある。多々良沼中央の湿地には安定して群落が見られる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠA類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
6	現存	5
	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況

オニノガリヤス

種子植物・イネ目
イネ科

Calamagrostis gigas Takeda

評価理由

3地点で生育が確認されている。いずれも人やニホンジカの立ち入りのない危険な渓流にあり、今回の調査期間内に減少した可能性は低い。

主な危険要因

特殊分布、その他（災害）

生育地は人が立ち入って作業できる環境にはない。ただし、雪崩や出水などの自然災害に対しての脆弱性はある。

特記事項

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数		
3	現存	3
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

カリマタガヤ

種子植物・イネ目
イネ科

Dimeria ornithopoda Trin. var. *tenella* (Trin.) Hack.

評価理由

22地点中5地点で生育が確認された。開発や管理放棄などによって減少傾向にあり、さらに一部の生育地にイノシシの掘り返しが確認された。

主な危険要因

動物食害※、管理放棄、外来種競合・交雑

小型の種のため、管理放棄によって外来種を含む大型草本が侵入すると消失する。また、一部ではイノシシの土壌攪乱によって集団が破壊されている。

特記事項

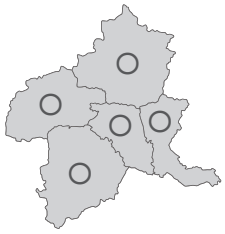
小型の植物であり、貧栄養で湿潤な条件が維持され続けることが生育のための条件と考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅱ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
22	現存	5
	不明	11
	絶滅	6

県内分布状況



※動物食害：イノシシ

イヌカモジグサ

種子植物・イネ目
イネ科

Elymus gmelinii (Ledeb.) Tzvelev var. *tenuisetus* (Ohwi) Osada

評価理由	5地点から1100個体の生育が確認された。過去に大規模な集団が確認された地点では、ニホンジカの食害や遷移進行のため減少傾向にある。
主な危険要因	自然遷移、動物食害（シカ）、草地開発 遷移による大型草本の侵入に加え、ニホンジカが忌避するワラビの個体密度の上昇とともに減少傾向にある。
特記事項	今回の調査で長らく現状不明だった産地にも生育が確認された。見かけ上の個体数の増加はそのためである。生育地によっては同一草原に外形がよく似たタチカモジがあるため、保全にあたっては十分識別する必要がある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	絶滅危惧ⅠB類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
5	現存	5
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

ミズタカモジ

種子植物・イネ目
イネ科

Elymus humidus (Ohwi et Sakam.) A.Löve

評価理由	7地点中5地点で生育が確認された。群生する生育地もあるが、開発や除草剤散布の影響も受けやすく、全体的に生育状況は不安定である。
主な危険要因	湿地開発、河川開発、農薬汚染 湿地や河川敷の開発によって生育地が破壊され続けてきた。また、農耕地や休耕地周辺では除草剤による被害も多い。
特記事項	県内の分布域は狭い。農耕地に接して分布する種で、水田雑草的な形態をしているため保護の対象にはなりにくい。春季にムギを栽培する群馬県の平野部では本種の生活史は農事暦に適合せず、このことも分布が限られる原因と考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
7	現存	5
	不明	1
	絶滅	1

県内分布状況

ヤマオオウシノケグサ

種子植物・イネ目
イネ科

Festuca hondoensis (Ohwi) Ohwi

評価理由	1つの山塊の2つの範囲に分布が限定される。一方では長さ2km にわたり。330個体が確認された。特殊な植生に依存し、生育できる環境の幅が狭い。
主な危険要因	踏み付け、特殊分布 生育環境は特異であり、明らかに立地依存であると考えられる。目立たない植物のため山頂や登山道脇では踏み付けられる場合が多い。
特記事項	生育地は国立公園及び県自然環境保全地域にある。分布可能域全域を精査した結果330個体が確認され、また急速な減少の兆候がないため、今回ランクを変更した。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧ⅠB類

判定基準	定量 D

産地数		
2	現存	2
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

アオウシノケグサ

種子植物・イネ目
イネ科

Festuca ovina L. subsp. *coreana* (St.Yves) E.B.Alexeev

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	3
6	不明	3
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

6地点中3地点で生育が確認された。路傍や観光地の草原の歩道脇など、開発や工事の影響を受ける場所にあり、減少のリスクを常に伴っていると考えられる。

主な危険要因

自然遷移、土地造成（その他）、道路工事

観光施設造成や歩道整備、道路工事など人為による影響の他、遷移による減少も考えられる。

特記事項

県植物誌改訂版（1987）ではウシノケグサ（広義）はウシノケグサとミヤマウシノケグサに分けられている。このうちウシノケグサとされたものの一部が本変種に相当する。本県では主に亜高山帯に分布する狭義のウシノケグサ（ミヤマウシノケグサを含む）に比べ、山地性の本変種は少ない。

カリヤスモドキ

種子植物・イネ目
イネ科

Miscanthus oligostachyus Stapf

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	5
5	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

5地点で生育が確認されたが、分布域は偏っている。80株を超える生育地もあるが、遷移進行等により衰退傾向にある生育地が多い。

主な危険要因

踏み付け、自然遷移、動物食害（シカ）

遷移の進行により被陰を受け、衰退している場所が多い。分布域にはニホンジカが侵入しているが、葉が硬い本種の摂食は限定的である。

特記事項

カリヤス

種子植物・イネ目
イネ科

Miscanthus tinctorius (Steud.) Hack.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数	現存	5
6	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

5地点で生育が確認されたが、大部分の生育地は小規模である。人里に接して成立した生育地では工事や遷移による減少が危惧される。

主な危険要因

特殊分布、自然遷移、道路工事

亜高山帯の生育地は開発のリスクが低い。一方で、集落周辺の集団は道路工事や遷移進行によって失われるリスクが高い。

特記事項

北陸などでは里山の草地の植物であるが、本県の生育環境の大部分は多雪地の亜高山帯斜面の草地である。本県の里山や路傍では、形態が類似するオオヒゲナガカリヤスモドキに比べてはるかに少ない。

ヒロハヌマガヤ

種子植物・イネ目
イネ科

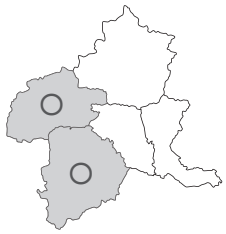
Neomolinia fauriei (Hack.) Honda

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
3	現存	3
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

同一地域の3地点で確認された。生育地ではしばしば群生する。遷移の進行とともに消失するが、伐採地や畑跡に侵入して群生することがある。

主な危険要因

管理放棄

遷移が進んでササ藪や安定したコナラ林になった場所では消失する。刈り取って畑の保温材として持続的に利用されることが、個体群の衰退よりは持続に働いている。

特記事項

本県の分布域では林縁や疎林に群生し、畑の保温材として利用されている。同一地域で伐採や畑の休耕に合わせて場所を変えながら群落を維持している。

アラゲネザサ

種子植物・イネ目
イネ科

Pleioblastus hattorianus Koidz.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅱ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数		
3	現存	1
	不明	2
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

3地点中1地点で生育が確認され、他からは確実な情報が得られなかった。生育が確認された地点では雑木林内に群生している。

主な危険要因

森林伐採、土地造成（その他）、管理放棄

雑木林内に生育しており、森林伐採や土地造成などが危険要因となる。社寺林内では、管理放棄に伴う増減がみられる。

特記事項

生育の確認された地点は、市が保護管理しているが、十分な対策が行われているとは言えない。

イブキソモソモ

種子植物・イネ目
イネ科

Poa radula Franch. et Sav.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠA類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
3	現存	3
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

近年尾瀬地域で再発見され、別の山域でも発見された。両山域の3地点から600株以上が記録された。シカの嗜好性は低い。

主な危険要因

その他（災害）

急斜面や河畔に生育するため、洪水や崩落の影響を受ける。しかし、攪乱依存種的な面があるため、攪乱によって維持されている面もある。

特記事項

2018年改訂版レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。尾瀬ではニホンジカの食害の影響はない。新たに確認された生育地にもニホンジカの侵入はみられない。

ムカゴツヅリ

種子植物・イネ目 イネ科

Poa tuberifera Faurie ex Hack.

評価理由

1地点のみで生育が確認されているが、過去に伐採によって生育面積が半減した。ただし残存する生育地の規模は大きく生育状況は良好である。

主な危険要因

森林伐採、その他（災害）

過去に伐採により生育面積が半減した。沢に面した生育地は豪雨に伴う土石流によって破壊される危険性がある。

特記事項

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
1	現存	1
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

イヌアワ

種子植物・イネ目 イネ科

Setaria chondrachne (Steud.) Honda

評価理由

9地点中4地点で生育が確認された。数10～100株単位の生育地が多いが、局地的な種であることに加えて遷移や工事の影響を受けやすい。

主な危険要因

道路工事、管理放棄、外来種競合・交雑

里山の林縁などに生育するため、草地や雑木林の管理放棄に加え外来種との競合や除草剤散布、道路工事などのリスクが高い。

特記事項

東部地域と西部地域で記録があるが、分布域はいずれも局地的である。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易ACD

産地数		
9	現存	4
	不明	1
	絶滅	4

県内分布状況

メガルカヤ

種子植物・イネ目 イネ科

Themeda triandra Forsk. var. *japonica* (Willd.) Makino

評価理由

19地点中10地点で生育が確認された。100株を超える生育地がある一方で、大部分の生育地はごく小規模である。

主な危険要因

自然遷移、土地造成（その他）、外来種競合・交雑

河畔などの草原の遷移に加え、生育地への外来種メリケンカルカヤの侵入、遊歩道の設置やそれに伴う踏み付けが危険要因となっている。

特記事項

もともと丘陵地や河川沿いに分布し、山地には分布しない。このため、人間や外来種の影響を受けやすいと考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
19	現存	10
	不明	6
	絶滅	3

県内分布状況

ジロボウエンゴサク

種子植物・キンポウゲ目
ケシ科

Corydalis decumbens (Thunb.) Pers.

評価理由	過去に記録がない3地点のみで確認された。生育地は人里に近く生育基盤が極めて脆弱な上に、ニホンジカやイノシシの食害を受けている。
主な危険要因	道路工事、動物食害※、土地造成（その他） 道路工事や公園整備の影響を受けて絶滅した地点がある。分布域はニホンジカとイノシシの侵入により、早春季植物の衰退が著しい。
特記事項	2018年改訂版レッドリスト絶滅危惧ⅠA類。新たな生育地が複数確認されたため今回ランクを見直した。県内では分布域が限定される。人里の植物で、南関東では比較的身近な植物のため、かえって関心を引くことがなかったため、気がついたときには絶滅危惧種になっていたと考えられる。

※動物食害：ニホンジカ、イノシシ

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	絶滅危惧ⅠA類
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
5	現存	3
	不明	0
	絶滅	2

県内分布状況

クモイイカリソウ

種子植物・キンポウゲ目
メギ科

Epimedium koreanum Nakai var. *coelestre* (Nakai) Yonek.

評価理由	9地点で生育が確認されたが、分布域が狭い上に特殊な立地に生育し、一部で園芸採取や踏み付けの影響を受けている。
主な危険要因	特殊分布、園芸採取、踏み付け 生育地の大半は国立公園内にあるため園芸採取に対しては一定の抑止効果があるが、踏み付けを防ぐ対策が必要な状況にあると考えられる。
特記事項	県北部の超塩基性岩地に依存する植物の中では比較的標高が低い地点から出現する。ただ、群生することは少なく全体として個体数は決して多くない。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
9	現存	9
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

センウズモドキ

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Aconitum jaluense Kom. subsp. *iwatekense* (Nakai) Kadota

評価理由	12地点で生育が確認された。他種との交雑が進み、純粋な種が失われている。ニホンジカの食害により一部で減少傾向にある。
主な危険要因	その他（種間交雑）、動物食害※、土地造成（その他） 一部でニホンジカによる食害を受けている。また、園地や遊歩道造成により減少した地点もある。同属の他種と交雑し、純粋な系統が減少している生育地もある。
特記事項	ニホンジカによる食害の程度は地域差がある。

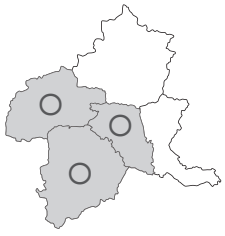
※動物食害：ニホンジカ

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量 D

産地数		
12	現存	12
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



ミョウコウトリカブト

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Aconitum nipponicum Nakai subsp. *nipponicum* var. *septemcarpum* (Nakai) Kadota

評価理由

12地点で生育が確認された。一部で遷移によって減少している。ニホンジカは現在のところ忌避している。

主な危険要因

自然遷移、分布限界
遷移によってチシマザサが侵入し減少することがある。

特記事項

県植物誌改訂版（1987）には記録がないが、利根地域で記録がある（Kadota 1987）。ただし、武尊山、尾瀬のものは子房の毛の状態に変異が多く、キタザワブシまたはオクトリカブトと移行的である。基準標本と合致するものからなる集団は越後山地の6地点にとどまると推定される。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定性

産地数		
12	現存	12
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

ウゼントリカブト

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Aconitum okuyamae Nakai var. *okuyamae*

評価理由

2地点で生育が確認された。一方の生育地ではニホンジカの忌避により生育個体数は1000に達する。

主な危険要因

分布限界、道路工事
大規模な生育地では、道路の改良工事が行われると、個体群に影響が及ぶ危険性が高い。

特記事項

2018年改訂版レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。東北地方の固有種で、本県は分布南限である。最大の生育地ではニホンジカが忌避するため増加傾向にあり、生育地の林床は本種が群生している。2019年に別の地点でも確認された。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2012）	情報不足
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
2	現存	2
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

ホソバトリカブト

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Aconitum senanense Nakai subsp. *senanense* var. *senanense*

評価理由

4地点中3地点で生育が確認された。大規模な防鹿ネット内に1000株以上生育する。ただしニホンジカの食害によりネットの外では開花個体を見ることはまれである。

主な危険要因

動物食害（シカ）
ニホンジカの嗜好性が高く防鹿ネットでしか開花株は見られない状況である。管理依存の状況にあると言える。

特記事項

キタザワブシ（絶滅危惧ⅠA類）同様猛毒であるにもかかわらずニホンジカによる高い摂食圧を受け、防鹿ネットの外で開花株を見ることは困難な状態になっている。日光白根山群馬県側のシラネアオイ保護区の防鹿ネット内のトリカブトの95% 以上は本種である。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
4	現存	3
	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況

フクジュソウ

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Adonis ramosa Franch.

評価理由

19地点中16地点で生育が確認された。天然記念物や観光スポットとして保護された生育地がある一方、園芸採取や工事によって絶滅することもある。

主な危険要因

園芸採取、管理放棄、動物食害（シカ以外）

商業的な園芸採取の対象となるが、一方で草地の開発や崩落防止工事、道路工事に伴い生育地が消失する場合もある。

特記事項

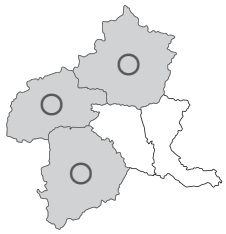
ミチノクフクジュソウに比べ分布地点数も株数も多く、また自治体の天然記念物として保護されている場所もある。ただし、生育環境から本来の自生のものか以前植栽されたものか判別が難しい場合もある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
19	現存	16
	不明	0
	絶滅	3

県内分布状況



レンゲショウマ

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Anemonopsis macrophylla Siebold et Zucc.

評価理由

33地点中19地点から550個体以上が記録された。地域的にはニホンジカの食害によって開花個体がみられない場合があるなど衰退傾向にある。

主な危険要因

動物食害（シカ）、園芸採取、自然遷移

ニホンジカの生息密度が高い地域では開花個体数の極端な減少が確認された。園芸対象として人気が高く、採取されている地点もあると考えられる。

特記事項

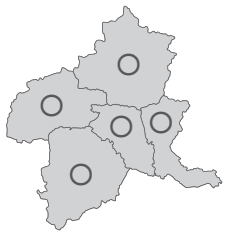
園芸対象となる種だが、大型で場所をとることから、採取の被害は限定的かもしれない。本県において最大の脅威は間違いなくニホンジカによる食害である。ニホンジカの食害で絶滅の危機にあり、金網で保護している場所もある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易ACD

産地数		
33	現存	19
	不明	12
	絶滅	2

県内分布状況



イヌショウマ

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Cimicifuga biternata (Siebold et Zucc.) Miq. var. *biternata*

評価理由

16地点中14地点から350個体が確認された。集落に近い丘陵に生育することが多く、保護体制がほとんどとられていない。

主な危険要因

動物食害※、森林伐採、土地造成（ソーラー）

伐採などにより林床が明るくなると消失する。分布域での野生動物被害は食害よりも掘り返しの方が大きい。分布域には太陽光発電施設が相次いで設置された。

特記事項

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅱ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易ACD

産地数		
16	現存	14
	不明	1
	絶滅	1

県内分布状況

※動物食害：ニホンジカ、イノシシ

シラネアオイ

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

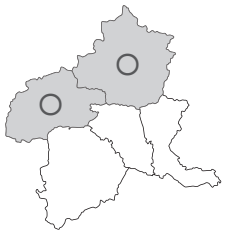
Glaucidium palmatum Siebold et Zucc.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	準絶滅危惧
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	41
43	不明	2
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

43地点中41地点で生育が確認された。ニホンジカによる食害によって個体数が減少した生育地があり、さらに園芸採取によっても減少していると考えられる。

主な危険要因

園芸採取、動物食害（シカ）

ニホンジカの食害によって防鹿柵以外では開花個体が見られない地域もある。園芸対象としても人気があり採取が後を絶たない。

特記事項

日光白根山では栃木県側を含めて防鹿柵が設置され、補植も行われているがミヤマシシウドなどの高茎草本による被陰もある。別の地域では自然分布から逸脱した場所に植栽されるケースもある。植え戻しや補植を行う場合は、本来の生育立地さらに自然分布の範囲を考慮し、地形や植生を見極めた上で実施すべきである。

イトキンポウゲ

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

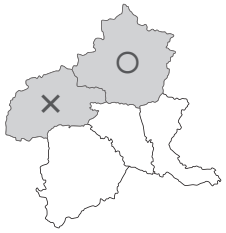
Ranunculus reptans L.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数	現存	5
6	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況



評価理由

6地点中5地点で生育が確認され、残り1地点ではダム建設によって絶滅した。生育環境が特殊で、踏み付けや水位調節に伴って減少したと考えられる。

主な危険要因

分布限界、その他（水位調節）、踏み付け

発電による水位調節や湖畔への立ち入りが危険要因として考えられる。生育地にニホンジカが侵入しているが直接的な食害は見受けられない。

特記事項

野反池が分布の南限であったが、ダム建設により絶滅した。生育地にニホンジカが侵入し本種の群落を踏み付けているが、食べている形跡はない。

オゼキンポウゲ

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Ranunculus subcorymbosus Kom. var. *ozensis* (H.Hara) Tamura

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	準絶滅危惧：シコタンキンポウゲとして

判定基準	定量 D

産地数	現存	1
1	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

1地点の全長2kmに及ぶ範囲から2000個体以上が確認された。ニホンジカの忌避により一時的に増加した状態にあると考えられる。

主な危険要因

その他（災害）、分布限界

生育地は河畔にあり災害の影響を受けやすい。分布域にニホンジカが侵入しているが、極端に嫌うため、選択的に食べ残され大きな群落が点在している。

特記事項

北海道に分布するシコタンキンポウゲと同一とする見解もあるが、Flora of Japanなどでは地域固有の変種としている（Kadota 2006、加藤・海老原編 2011）。尾瀬では1水系にのみ分布することが判明した。県レッドデータブック（2012）の確認地点の3地点はミヤマキンポウゲの誤認だった。

ミョウギカラマツ

種子植物・キンポウゲ目
キンポウゲ科

Thalictrum minus L. var. *chionophyllum* (Nakai ex F.Maek.) Emura

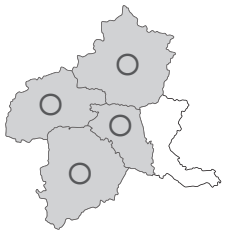
評価理由	20地点で生育が確認された。分布域は偏り、特定の立地に依存する傾向がある。一部の生育地は石灰岩の採掘の影響を受けている。
主な危険要因	特殊分布、自然遷移、その他（登山道管理の除草） 特定の立地に依存して生育し、分布域が限られるため環境変化や極端な気候に対して脆弱性が高いと考えられる。
特記事項	環境省レッドリスト（2020）の評価は絶滅危惧ⅠA類だが、県内では県南西部から吾妻地域までの間に20地点もの産地を認識している。非常に危険な岩壁に生育するため、十分な調査が行われていない場所がまだあると考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧ⅠA類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
20	現存	20
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



ヤシャビシャク

種子植物・ユキノシタ目
スグリ科

Ribes ambiguum Maxim. var. *ambiguum*

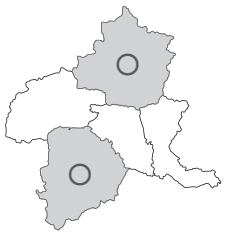
評価理由	24地点中23地点で生育が確認された。過去に大規模な伐採を受けた分布域がある。また、園芸採取によっても減少した。
主な危険要因	特殊分布、園芸採取、森林伐採 自然林の伐採に伴って大幅に減少したと考えられる。また、園芸採取の対象となる。
特記事項	樹上に着生し、既知の生育地の周辺には広大な自然林が広がり、生育に適した場所が多い。登山道沿いに着生が確認された樹木の密度から、分布域全体では、少なくとも数100本の樹木には着生すると推定される。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定性

産地数		
24	現存	23
	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況



ヤマネコノメソウ

種子植物・ユキノシタ目
ユキノシタ科

Chrysosplenium japonicum (Maxim.) Makino var. *japonicum*

評価理由	3地点から約250個体が確認された。分布域は過去の調査記録や標本数が極端に少ない地域のため、今回記録された地点以外にも生育する可能性は高い。
主な危険要因	踏み付け、自然遷移、その他（水路改修） 歩行者の踏み付けや水路管理によって生育地が破壊される可能性がある。湿った裸地に生育するため、遷移によって生育地が失われる。
特記事項	本県では利根沼田地域の集落周辺のみに生育する。これらの地域は背後に自然度の高い山岳を控え、全体的に調査データや標本が乏しい。また、和名から山地の植物と誤解され、誤同定も多い。正確な分布を把握するとともに、集落周辺に限って分布する希少種があるという認識をもつことが重要である。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
3	現存	3
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

ツメレンゲ

種子植物・ユキノシタ目
ベンケイソウ科

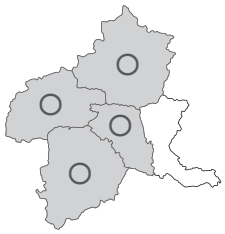
Orostachys japonica (Maxim.) A.Berger

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	準絶滅危惧
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量 A

産地数		
27	現存	25
	不明	1
	絶滅	1

県内分布状況



評価理由

25地点で生育が確認された。株数が多い生育地が存在する反面、根こそぎ採取し尽くされた大規模な生育地もある。

主な危険要因

園芸採取、ダム建設、道路工事

園芸採取が後を絶たない。道路擁壁の工事によっても消失する。ダム建設に伴う影響は本種に限れば限定的であった。

特記事項

岩壁にあった大集団が20年間で採り尽くされた悪質な事例もある。民家や集落周辺の道路の石垣の半栽培状態の個体をもとに種苗生産を行い、系統保存とともに野生個体への採取圧を軽減させるなどの対策も必要かも知れない。

アズマツメクサ

種子植物・ユキノシタ目
ベンケイソウ科

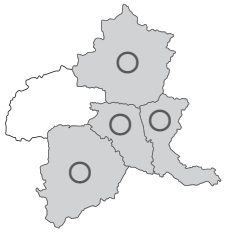
Tillaea aquatica L.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
11	現存	6
	不明	0
	絶滅	5

県内分布状況



評価理由

11地点中5地点で絶滅、6地点で生育が確認された。生育地では群生する地点もあるが、生育環境が悪化したり消失した生育地が多い。

主な危険要因

管理放棄、湿地開発、その他（転作）

矮小な植物で管理依存の傾向が強いため、管理放棄により消失しやすい。また、開発や圃場整備の影響を受けやすい。

特記事項

休耕後しばらくの間は増加傾向にあるが、その後遷移の進行によって生育が途絶えることが多い。

ノアズキ

種子植物・マメ目
マメ科

Dunbaria villosa (Thunb.) Makino

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数		
8	現存	3
	不明	3
	絶滅	2

県内分布状況

評価理由

8地点中3地点で生育が確認された。平野部に分布するため、すでに絶滅したと考えられる産地が多い。まとまって生育する生育地もある。

主な危険要因

池沼開発、河川開発、外来種競合・交雑

平野の河畔や池沼畔に生育するため、河川工事や公園造成により失われやすい。また、アレチウリなどの外来種とも生育環境が重複し、競合する。

特記事項

ホソバイラクサ

種子植物・バラ目
イラクサ科

Urtica angustifolia Fisch. ex Hornem. var. *angustifolia*

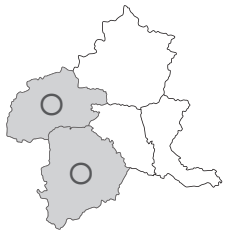
評価理由	4地点中3地点で確認された。前回現状不明だった山域からは路傍に数100株単位の集団が確認された。乾燥化とともに長続きしない生育地もある。
主な危険要因	自然遷移、土地造成（その他）、道路工事 砂防工事や道路工事に伴い生育地が消失する場合がある。湿地林の乾燥化に伴う遷移進行も減少要因となる。
特記事項	形態が酷似したエゾイラクサ（托葉は節あたり2枚：ホソバイラクサは4枚）と混同されやすいため、希少種として認識されにくい。路傍や園地に出現した場合、厄介な毒草として駆除の対象となることもある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠA類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
4	現存	3
	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況



ゴキヅル

種子植物・ウリ目
ウリ科

Actinostemma tenerum Griff.

評価理由	11地点中8地点で生育が確認された。平野部や丘陵に分布が限定され、一部にまとまった分布域があるが、開発や外来種との競合により減少している。
主な危険要因	湿地開発、河川開発、外来種競合・交雑 主に平野部の河川敷や湿地に生育するため、開発の影響を受けやすい。また、アレチウリなどの外来種とも生育環境が重複して競合する。
特記事項	西部地域でも今回確認された。ただし、周囲には植栽起源と考えられる水生植物が生育し、本来の自生であるか検討が必要である。特に河川と接する急な岸部に多いので、生育環境が不安定で見出しにくくなっている。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数		
11	現存	8
	不明	1
	絶滅	2

県内分布状況

オオシラヒゲソウ

種子植物・ニシキギ目
ニシキギ科

Parnassia foliosa Hook.f. et Thomson var. *japonica* (Nakai) Ohwi

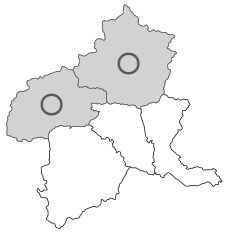
評価理由	4地点で生育を確認、または現存すると推定される。環境、株数、監視体制、人為的な影響は生育地によって大きく異なる。
主な危険要因	湿地開発、その他（植林・乾燥化）、園芸採取 植林による被陰、乾燥化に伴う高茎草本の侵入、湿地の開発、園芸採取、雪崩に伴う剥落と、産地によって危険要因は異なる。
特記事項	一部の生育地を除き園芸採取が危惧される。利根沼田地域の生育地は再調査困難な場所にある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
4	現存	4
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



ヒゴスミレ

種子植物・キントラノオ目
スミレ科

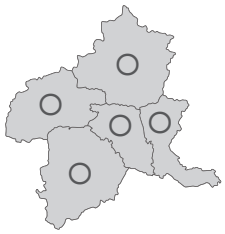
Viola chaerophylloides (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	45
49	不明	3
	絶滅	1

県内分布状況



評価理由

49地点中45地点で生育が確認された。本県では分布域が広く、まれな種ではなかったと考えられるが、園芸採取や管理放棄により減少し続けている。

主な危険要因

森林伐採、管理放棄、園芸採取

低山の雑木林の伐採や管理放棄によって生育環境が悪化していて、園芸採取も懸念される。

特記事項

園芸対象で採取される危険性に加え、植栽されるれることもあり交雑の可能性も考えられる。また、エイザンスミレと交雑しやすく、小さな群落だとほぼ雑種化してしまうことが多い。

チシマウスバスミレ

種子植物・キントラノオ目
スミレ科

Viola hultenii W.Becker

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量 D

産地数	現存	18
18	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

18地点で生育が確認されているが、多くの地点で開花個体数は少ない。分布は特定の地域に偏り、また特定の立地に依存するため、脆弱性が高いと考えられる。

主な危険要因

特殊分布、自然遷移、踏み付け

分布の南限に近く特定の環境に依存するため、環境の変化に弱いと考えられる。

特記事項

大部分の生育地は国立公園及び自然環境保全地域内にある。本県は南限に近いが、本州にしては生育地点数が多い。

オオバタチツボスミレ

種子植物・キントラノオ目
スミレ科

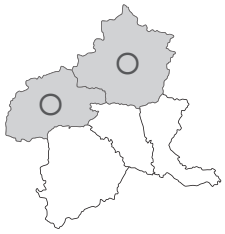
Viola langsdorffii Fish. ex DC. subsp. *sachalinensis* W.Becker

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量 D

産地数	現存	11
13	不明	2
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

11地点で生育が確認され、株数がまとまっている生育地もある。保護された生育地が多いが、生育環境が限定され、環境の変化に弱いと考えられる。

主な危険要因

特殊分布、ダム建設

分布の南限に近く特定の環境に依存するため、環境の変化に弱いと考えられる。

特記事項

大部分の生育地は国立公園内にある。現存する生育地以外の地域で、過去にダムによって大半が失われた生育地が存在する。

ゲンジスミレ

種子植物・キントラノオ目
スミレ科

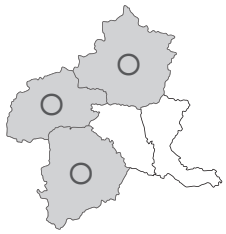
Viola variegata Fisch. ex Link ex DC. var. *nipponica* Makino

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	13
13	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

13地点で生育が確認されているが、いずれの地点も個体数が少ない。また、園芸採取される可能性がある。

主な危険要因

園芸採取、動物食害（シカ）、管理放棄

崩壊地や岩場など不安定な土地に分布するため生育環境が悪化している。山里や登山道沿いに分布しているため、園芸採取も懸念される。

特記事項

県内では数十株単位で残存している生育地は極めて少ない。また、小さい株のみが残存している生育地も多い。

ユビソヤナギ

種子植物・キントラノオ目
ヤナギ科

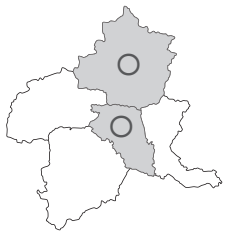
Salix hukaoana Kimura

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数	現存	16
16	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

利根川上流域の、支流を含む16地点及び区間から記録された。河川開発の影響により減少傾向にある。

主な危険要因

河川開発、土地造成（その他）、ダム建設

砂防工事や護岸工事、河川敷の工事によって生育可能な環境が破壊された。過去にはダム建設によって生育地が水没した。

特記事項

本県のユビソヤナギの分布域は、渋川市より上流の利根川と3つの支流の総延長70km 及ぶことが判明した（阿部 2012、2018）。一方で、分布の中心域にある湯桧曽川、谷川流域において10年間で個体数が40% 減少した事実もある（竹内・高橋 2008）。

ノウルシ

種子植物・キントラノオ目
トウダイグサ科

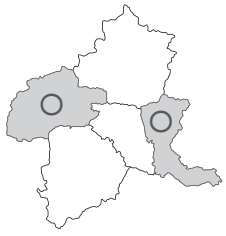
Euphorbia adenochlora C.Morren et Decne.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量 D

産地数	現存	16
18	不明	0
	絶滅	2

県内分布状況



評価理由

16地点で生育が確認された。生育地が連続する地域も存在するが、分布域は狭く、開発などにより減少傾向にあると考えられる。

主な危険要因

河川開発、湿地開発、自然遷移

河川敷や湿地の開発や工事、密生したヨシ群落やヤナギ林への遷移進行が危険要因としてあげられる。

特記事項

春先には河川敷に黄色いパッチがみられるほど群生する場合もある、しかし、県内の分布域は狭く、過去には生育地がゴルフ場などに改変されたと考えられる。

ミズマツバ

種子植物・フトモモ目
ミソハギ科

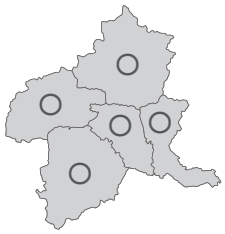
Rotala mexicana Cham. et Schltdl.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量D

産地数		
66	現存	55
	不明	6
	絶滅	5

県内分布状況



評価理由

55地点で生育が確認された。一部に水田数枚にわたって発生する地域もあるが、農業を取り巻く環境の変化から、連続して減少傾向にある。

主な危険要因

農薬汚染、管理放棄、その他（転作）

現存する生育地の多くは水田やその周辺部で、除草剤散布や管理放棄によって衰退・消失する場合が多い。

特記事項

過去20年間、中山間地の水田の管理放棄によって発生が認められなくなった例が目立つ。この傾向は獣害による被害が激しく、高齢化・過疎化が深刻な地域で顕著である。

トダイアカバナ

種子植物・フトモモ目
アカバナ科

Epilobium platystigmatosum C.B.Rob.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠA類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量D

産地数		
5	現存	4
	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

5地点中4地点で生育が確認された。小型の植物で遷移や工事によって消失する危険性がある。ニホンジカの生息密度が高い地域に分布するが、嗜好性は低い。

主な危険要因

土地造成（その他）、自然遷移、道路工事

裸地に生育するため、自然遷移により消失する危険性が高い。

特記事項

2010年以降相次いで生育地点が発見されたためランクを修正した。従来本種を意識した調査がなされていなかった側面はあるが、一方で、ダムや道路建設により生育適地が増えたと考えられる。関東山地の長野県側でも記録があり、南アルプスから秩父山地を経て関東山地には連続的に分布していると考えられる。

ウスゲチョウジタデ

種子植物・フトモモ目
アカバナ科

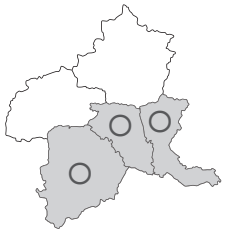
Ludwigia epilobioides Maxim. subsp. *greatrexii* (H.Hara) P.H.Raven

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量D

産地数		
12	現存	12
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

12地点で生育が確認された。水田やその周辺に生育する種のため、生育基盤が脆弱で、株数や分布地点の変動が大きい。

主な危険要因

管理放棄、農薬汚染

水田の管理放棄、また除草剤散布が主な減少要因として考えられる。

特記事項

2000年頃は県の南東部に分布が限られていたが、近年分布域が広がる傾向にある。

チョウセンナニワズ

種子植物・アオイ目
ジンチョウゲ科

Daphne koreana Nakai

評価理由	12地点で生育が確認されているが、分布は同一地域に偏っている。県内最大規模の産地は石灰岩の採掘によって大部分が失われたと考えられる。
主な危険要因	特殊分布、踏み付け、石灰採掘 生育面積は狭く脆弱性が高いと考えられる。石灰岩の採掘に加えて登山者やロッククライマーによる踏み付けが減少要因としてあげられる。
特記事項	ニホンジカの生息密度が高い地域に分布するが、食害は枝先など限られた部位にとどまっている。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量 D

産地数		
12	現存	12
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

ハクサンハタザオ

種子植物・アブラナ目
アブラナ科

Arabidopsis halleri (L.) O'Kane et Al-Shehbaz subsp. *gemmifera* (Matsum.) O'Kane et Al-Shehbaz var. *senanensis* (Matsum.) Yonek.

評価理由	11地点中7地点で生育が確認された。もともと分布が偏っている上に遷移や公園造成などの影響を受けていると考えられる。
主な危険要因	土地造成（その他）、外来種競合・交雑、自然遷移 公園や遊歩道の造成により生育地が失われたり、農地周辺の管理放棄や大型外来種の侵入により衰退する場合が多い。
特記事項	分布域は比較的狭い。吾妻地域からの標本記録は同定に疑問がある（ミヤマハタザオの可能性あり）。ハクサンハタザオの和名で高山植物と勘違いされやすいが、農耕地周辺や河畔の低茎の草地にみられる植物である。そのため絶滅危惧種と気付かれずに生育地が破壊されたり除草される場合が多いと考えられる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
11	現存	7
	不明	2
	絶滅	2

県内分布状況

ヤマガラシ

種子植物・アブラナ目
アブラナ科

Barbarea orthoceras Ledeb.

評価理由	13地点中9地点で生育が確認された。一部の山域で外来種ハルザキヤマガラシとの競合により減少した。軽度ながらニホンジカの食害もある。
主な危険要因	自然遷移、動物食害（シカ）、外来種競合・交雑 一部の生育地はニホンジカによる食害を受けている。また、海抜の低い地方から外来種ハルザキヤマガラシが侵入して競合し、排除された場所もある。
特記事項	生育地の大半にはハルザキヤマガラシがまだ侵入していないことが判明した。今後も生育地にハルザキヤマガラシを入れないことが重要である。いったん侵入するとヤマガラシとハルザキヤマガラシの識別が難しいため、保護対策は困難を極めると予測される。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	情報不足
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
13	現存	9
	不明	3
	絶滅	1

県内分布状況

マツグミ

種子植物・ビャクダン目
オオバヤドリギ科

Taxillus kaempferi (DC.) Danser var. *kaempferi*

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
7	現存	5
	不明	0
	絶滅	2

県内分布状況

評価理由

5地点で確認されているが、分布は散発的で、1地点を除いて個体数は少ない。個体群は孤立していることが多い。

主な危険要因

その他（災害）、自然遷移

台風や大雪による枝折れ、寄主の衰弱枯死、テングス病との勘違いやマツの樹勢維持のための駆除が減少要因である。

特記事項

本県の分布は都市域や農村部に限られる。他のヤドリギ類同様鳥散布種子のため、渡り鳥であるレンジャク類などの野鳥の保護が、種子分散には必須である。

シロバナサクラタデ

種子植物・ナデシコ目
タデ科

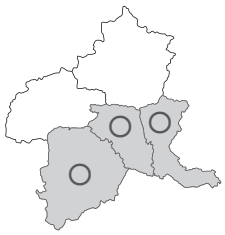
Persicaria japonica (Meisn.) Nakai ex Ohki

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
29	現存	17
	不明	6
	絶滅	6

県内分布状況



評価理由

17地点で生育が確認されたが、分布が平野部に限られており、特定地域に集中する傾向がある。また、管理放棄による減少が著しい。

主な危険要因

管理放棄、農薬汚染、道路工事

生育地あたりの生育面積が狭いため河川改修、遷移により生育地が一気に消失する危険がある。

特記事項

河川敷・管理放棄地の群落は、つる植物の繁茂などで生育が阻害されている。

サクラタデ

種子植物・ナデシコ目
タデ科

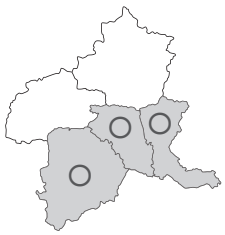
Persicaria odorata (Lour.) Soják subsp. *conspicua* (Nakai) Yonek.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
17	現存	8
	不明	4
	絶滅	5

県内分布状況



評価理由

17地点で記録されているが、そのうち5地点で絶滅し、生育が確認できたのは8地点である。個体数が減少している生育地が多い。

主な危険要因

土地造成（圃場整備）、管理放棄、農薬汚染

土地開発・整備に加え、河川沿いや畦道などではイネ科の高茎植物との競合で個体数が減少している。

特記事項

沼周辺の低地帯に、大きな群落が見出されている。東部地域の公有施設で系統保存が行われている。

ホソバイヌタデ

種子植物・ナデシコ目
タデ科

Persicaria trigonocarpa (Makino) Nakai

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
12	現存	10
	不明	0
	絶滅	2

評価理由

12地点中10地点で生育が確認された。1地点あたりの株数10～90である。もともと分布が限られ、開発の影響を受けやすい種である。

主な危険要因

管理放棄、河川開発、自然遷移

河川敷の開発や、湿性草地の管理放棄で生育地が減少したほか、近年は河川改修や除草剤散布による局所的な消失も認められる。

特記事項

県内分布状況

ナガバノモウセンゴケ

種子植物・ナデシコ目
モウセンゴケ科

Drosera anglica Huds.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
28	現存	28
	不明	0
	絶滅	0

評価理由

28地点で生育が確認されたが、それらは同一地域内にある。株数は多いが、特殊な立地に依存し生育基盤は脆弱である。

主な危険要因

特殊分布、分布限界

生育環境は特殊で、環境の変化により減少する危険性がある。一部の生育地にニホンジカが侵入しているが、現在のところ目だった被害はない。

特記事項

生育地はすべて国立公園内にある。本県が分布南限となる隔離分布種である。

県内分布状況

カトウハコベ

種子植物・ナデシコ目
ナデシコ科

Arenaria katoana Makino var. *katoana*

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
9	現存	9
	不明	0
	絶滅	0

評価理由

9地点で確認されたが、分布する山域は限定される。特殊な立地に生育し、踏み付けの影響を受けている。

主な危険要因

踏み付け、特殊分布、分布限界

生育地の大半は国立公園内にあるが、花期以外は目立つ植物ではないので、園芸採取より踏み付けが危惧される。

特記事項

生育地は国立公園または県自然環境保全地域にある。登山道の明確化と立ち入り禁止のロープ設置などにより、回復した生育地もある。

県内分布状況

オオビランジ

種子植物・ナデシコ目
ナデシコ科

Silene keiskei Miq. var. *keiskei*

評価理由	26地点中23地点で生育が確認された。大規模な生育地も存在するが、園芸採取や道路工事によって減少している。
主な危険要因	園芸採取、特殊分布、自然遷移 複数の生育地で園芸採取により深刻な影響を受けている。また、斜面の吹き付け工事や、岩場へのツタやキヅタの進出により失われた生育地もある。
特記事項	山草園芸採取の対象として採取されている。生育地周辺の山村で栽培される場合があるので、これらの種子や挿し木苗を生産・販売することで野生株の採取を防ぐことも検討の余地があると思われる。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	準絶滅危惧
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
26	現存	23
	不明	0
	絶滅	3

県内分布状況

サクラソウ

種子植物・ツツジ目
サクラソウ科

Primula sieboldii E.Morren

評価理由	79地点中71地点で生育が確認された。群生地も存在するが、園芸採取のため株数が激減したり、種子繁殖が困難になった生育地もある。
主な危険要因	園芸採取、ゴルフ場、土地造成（ソーラー） 園芸目的の採取が後を絶たない。ゴルフ場などのリゾート開発や太陽光パネル設置により消失した生育地がある。
特記事項	大規模な生育地が相次いで発見されたが、個体数は増加したわけではない。市町村の天然記念物として保護された生育地がある一方で、園芸目的の大量採取が後を絶たない。採取によって花柱型が単一化し、種子繁殖ができなくなった生育地も存在する。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量 A

産地数		
79	現存	71
	不明	2
	絶滅	6

県内分布状況

ハコネコメツツジ

種子植物・ツツジ目
ツツジ科

Rhododendron tsusiophyllum Sugim.

評価理由	5地点で生育が確認された。生育地が一つの地域にまとまっている。
主な危険要因	園芸採取、分布限界 園芸店で増殖品が売られていることもあり、園芸採取があとを絶たない。生育地の崩落によって個体数が減少する危険性もある。
特記事項	生育地は比較的安定しており、1992から1994年の間に行われた調査時と個体数の大きな変動はないと思われた。危険を伴う場所のため登山者が少ないことも幸いしているが大規模な園芸目的の採取が懸念される。フォッサマグナ要素の植物であり8都県で分布が確認されているが、そのうち2都県で現状不明となっている。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
5	現存	5
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

ハナムグラ

種子植物・リンドウ目
アカネ科

Galium tokyoense Makino

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
12	現存	11
	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況

評価理由

12地点中11地点で生育が確認された。群生する場合もあるが、分布が特定地域に偏り、開発されやすい場所に生育するため、急減する危険性がある。

主な危険要因

河川開発、湿地開発、自然遷移

分布が平野部の低湿地に限定されるため、公園造成や改修工事によって生育地が消失する危険性が高い。またヤナギ林やハンノキ林への遷移によっても消失する。

特記事項

テングノコヅチ

種子植物・リンドウ目
リンドウ科

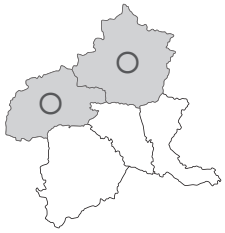
Tripterospermum japonicum (Siebold et Zucc.) Maxim. var. *involubile* (N.Yonez.) J.Murata

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定性

産地数		
9	現存	9
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

9地点で生育が確認された。分布域は広く生育地点数は過小評価されていると考えられる。ただし分布密度は低い。

主な危険要因

動物食害（シカ）、森林伐採、スキー場

分布域には、過去に大規模な伐採やスキー場開発を受けた地点が含まれる。複数の生育地にはニホンジカが侵入し、林床の攪乱が見られる。

特記事項

ツルリンドウとの中間的な個体もみられる。典型的な亜高山帯針葉樹林の植物で、自然林をそのまま残すことが唯一の保護策と考えられる。

シロバナカモメヅル

種子植物・リンドウ目
キョウチクトウ科

Vincetoxicum sublanceolatum (Miq.) Maxim. var. *macranthum* Maxim.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数		
9	現存	9
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

9地点で生育が確認されたがそれらは同一地域にあり、線的に生育するため、株数は限られる。生育環境は限られているが、よく保全されている。

主な危険要因

自然遷移

生育環境はよく保全されている。遷移や増水によって部分的な減少が見込まれる。

特記事項

ホタルカズラ

種子植物・ムラサキ目
ムラサキ科

Lithospermum zollingeri A.DC.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅱ類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量A

産地数		
47	現存	28
	不明	14
	絶滅	5

県内分布状況

評価理由

47地点中28地点で生育が確認された。通常まとまって生育する。管理放棄や道路工事による減少に加えて、近年、太陽光発電施設が建設された分布域がある。

主な危険要因

管理放棄、道路工事、土地造成（ソーラー）

草地や雑木林の管理放棄が最大の減少要因であると考えられる。道路工事のために消失した生育地もある。近年、太陽光発電施設が建設された分布域がある。

特記事項

生育地では一見すると個体数が多いように感じるが、茎は匍匐して広がり先端に葉を叢生するためである。見た目よりも個体数は少ないと思われる。

ツルカメバソウ

種子植物・ムラサキ目
ムラサキ科

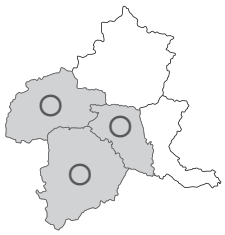
Trigonotis iinumae (Maxim.) Makino

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧ⅠB類

判定基準	定量D

産地数		
35	現存	31
	不明	2
	絶滅	2

県内分布状況



評価理由

35地点中31地点で生育が確認され、群生地も記録された。特定地域に分布が集中する傾向があり、生育環境は限定され脆弱性が高いと考えられる。

主な危険要因

自然遷移、道路工事、河川開発

分布が集中する地域では希少種と認識さず、保護もされていない。このため道路工事や砂防ダム工事が行われ破壊され続けている生育地もある。

特記事項

分布域では、畑の跡や路傍の造成地に侵入するなど、旺盛な成長を示す。しかし、いったん分布域を外れると全く見ることができない。種子分散能力が低いか、特異な立地に依存している可能性がある。

アブノメ

種子植物・シソ目
オオバコ科

Dopatrium junceum (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
12	現存	7
	不明	4
	絶滅	1

県内分布状況

評価理由

12地点中7地点で生育が確認された。数100株に達する生育地もあるが、水田雑草のため人為的な管理に依存し、生育基盤は脆弱である。

主な危険要因

管理放棄、農薬汚染、その他（転作）

干拓などの湿地開発により生育地が失われた。現存する生育地では除草剤散布や管理放棄が危険要因である。

特記事項

水田雑草のため、消長は人為的な管理に依存する。近年、東部地域以外での記録が相次いでいる。分布は拡大傾向にあるかもしれない。

キタミソウ

種子植物・シソ目
オオバコ科

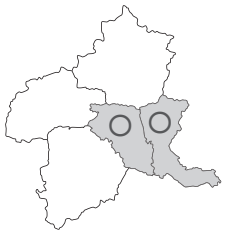
Limosella aquatica L.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量D

産地数	現存	6
7	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況



評価理由

6地点で確認されている。生育地のうち1地点は大規模であるが、残りは小規模である。現状不明の1地点は偶発的に発生したと考えられる。

主な危険要因

河川開発、特殊分布、その他（災害）

存続には年間の水位変動と河岸の砂泥の堆積が必要である。このため、浚せつ工事や水位調節パターンの変更で一斉に絶滅すると考えられる。

特記事項

生活史が特異で、かつ微小な植物のため、非常に脆弱性が高いと考えられる。水による種子散布を考慮すると、水系全体を見据えた保護が望まれる。多々良沼では5年ほど前、沼底に敷いた防草シートの上に2020年冬、多量の生育が見られた。

ハクサンオオバコ

種子植物・シソ目
オオバコ科

Plantago hakusanensis Koidz.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数	現存	1
1	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

1地点のみで確認されている。人やニホンジカが立ち入らず、環境が安定しているため、変化はないと考えられる。生育立地は特殊で、脆弱であると考えられる。

主な危険要因

特殊分布

人の立ち入りやニホンジカによる食害はない地域にあるが、生育環境は特殊で、気候変動に対して脆弱であると考えられる。

特記事項

生育地周辺では現在のところ、ニホンジカの影響は確認されていない。

グンバイヅル

種子植物・シソ目
オオバコ科

Veronica onoei Franch. et Sav.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定性

産地数	現存	10
11	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況

評価理由

10地点で生育が確認されたが分布域は狭い。大規模な生育地も含まれるが、自然遷移や火山噴火により減少傾向にあると考えられる。

主な危険要因

自然遷移、踏み付け、その他（災害）

裸地的な環境に出現する種のため、遷移進行とともに消失する場合が多い。草津白根山噴火に伴い1地点で大きな影響があったと考えられる。

特記事項

火山裸地の代表的な種だが、活火山の路傍や踏み跡にもよくみられる。雑草的な生態のため、希少種として見られないことが多い。草津白根山の噴火に伴い、大きな集団が噴出物に埋まった可能性が高い。

イヌノフグリ

種子植物・シソ目
オオバコ科

Veronica polita Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

評価理由

60地点中31地点で生育が確認された。近年過疎化に伴う耕作放棄等により個体数減少が加速している。

主な危険要因

管理放棄、外来種競合・交雑、農薬汚染

山村の耕作放棄や廃村化で生育地が失われている。市街地等では外来種との競合や除草剤散布、道路や駐車場の工事が主な危険要因である。

特記事項

直近10年間では、本来分布が集中していた県南西部の山村での減少が顕著である。これは過疎化に伴い、生育可能な路傍や農耕地が放棄され、遷移が進んだためである。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
60	現存	31
	不明	7
	絶滅	22

県内分布状況

イヌタヌキモ

種子植物・シソ目
タヌキモ科

Utricularia australis R.Br.

評価理由

24地点中15地点で生育が確認されたが、発生数の年変動が大きい地点が多い。また、圃場整備や除草剤散布で生育地点は減少傾向にある。

主な危険要因

池沼開発、土地造成（圃場整備）、管理放棄

池沼開発とともに、水田周辺の産地では圃場整備や管理放棄が致命的な影響を与えている。過去に水質汚濁のため、平野部の何地点かで絶滅した。

特記事項

タヌキモと混同されていたが、本県で採集された浮遊性タヌキモ類の標本の大部分は本種に同定される。自然湖沼のほか、水田やため池にもみられたが、そのような環境ではごくまれになっている。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	絶滅危惧Ⅰ類
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
24	現存	15
	不明	3
	絶滅	6

県内分布状況

ヤチコタヌキモ

種子植物・シソ目
タヌキモ科

Utricularia ochroleuca R.Hartm.

評価理由

9地点で生育が確認されているが、これらは同一地域内に位置する。小集団を作るが遷移進行や乾燥化により容易に消失すると考えられる。

主な危険要因

特殊分布、自然遷移

生育地は厳重に保護されている。しかし、泥炭表面を這うため、遷移進行による上層の被陰や乾燥化の影響を受けやすいと考えられる。

特記事項

生育地はすべて国立公園内にある。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧ⅠB類
群馬県（2001）	情報不足
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量D

産地数		
9	現存	9
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

テイネニガクサ

種子植物・シソ目
シソ科

Teucrium teinense Kudô

評価理由

4地点から記録があり、周辺地域での生育も見込まれる。生育地1地点の詳細情報やニホンジカの嗜好性から、減少率は低いと推定される。

主な危険要因

森林伐採、その他（歩道整備）

過去の自然林の伐採によって生育地が失われたと考えられる。歩道整備の工事や道刈りの影響も若干見られる。

特記事項

2018年改訂版レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。過去にも不確定な生育情報はあったが、2016年に標本同定の結果から県内に分布することが判明した。不明種とされたりツルニガクサの若いものと誤認されてきた。ニホンジカの生息密度が高い地点でも食害は確認されていない。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	準絶滅危惧

判定基準	定性

産地数		
4	現存	3
	不明	1
	絶滅	0

県内分布状況

ミョウギシャジン

種子植物・キク目
キキョウ科

Adenophora nikoensis Franch. et Sav. var. *petrophila* (H.Hara) H.Hara

評価理由

8地点から生育が確認されたが、分布範囲は狭く、生育環境は特殊である。加えて、園芸採取による減少が懸念される。

主な危険要因

自然遷移、園芸採取

希少な種であり花が目立つため園芸採取の対象となっている。

特記事項

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数		
9	現存	8
	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況

センボンギク

種子植物・キク目
キク科

Aster microcephalus (Miq.) Franch. et Sav. var. *microcephalus*

評価理由

2地点で多数の株が確認されたが、これらは同一河川沿いにある。自生域の一部はダム建設に伴い消失したと推定される。

主な危険要因

踏み付け、ダム建設

遊歩道からの無秩序な立ち入りに伴う踏み付けが確認された。生育地の一部はダム建設の影響を受けた。

特記事項

東部地域以外の河川にも類似した形態のものがある。しかし、それらの産地では狭葉型のものと典型的なノコンギクまで連続する。本調査では、典型的な線形の葉と叢生する茎で特徴付けられる集団に限って解析した。

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量C

産地数		
2	現存	2
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

オオイワインチン

種子植物・キク目
キク科

Chrysanthemum pallasianum (Fisch. ex Besser) Kom.

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	絶滅危惧Ⅱ類

判定基準	定量 D

産地数	現存	14
14	不明	0
	絶滅	0

評価理由

14地点で確認されたが分布域は狭い。株がまとまる地点もあるが、生育可能な環境が限られており、遷移や踏み付けにより衰退している生育地もある。

主な危険要因

自然遷移、踏み付け、園芸採取

低木林への遷移により衰退している生育地もある。また、登山道沿いや山頂域では踏み付けによる裸地化により大きく減少した地点もある。

特記事項

危険地帯にあり、人が容易に踏み込めないところの個体群は安定している。

県内分布状況

シドキヤマアザミ

種子植物・キク目
キク科

Cirsium shidokimontanum Kadota

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	9
9	不明	0
	絶滅	0

評価理由

9地点で生育が確認されたが、分布域は限定される。群生する生育地もあるが、動物食害や除草作業により減少している生育地もある。

主な危険要因

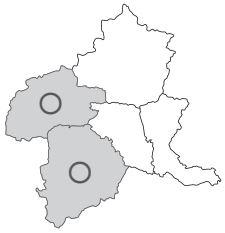
自然遷移、動物食害※、その他（除草）

分布域が狭い上に、動物による食害や踏み荒らしがみられる。アザミとしては大型で群生するため、一部の生育地では土地管理者に迷惑がられ、しばしば除草される。

特記事項

2002年に新種として記載された（Kadota 2002）。群馬県では2004年に当初エゾヤマアザミとして採集されたが、後に本種に同定された。本種は福島県から長野県東信地域に分布する（Kadota 2002）。

県内分布状況



ジョウシュウアズマギク

種子植物・キク目
キク科

Erigeron thunbergii A.Gray subsp. *glabratus* (A.Gray) H.Hara var. *heterotrichus* (H.Hara) H.Hara

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県（2001）	希少
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量 D

産地数	現存	12
12	不明	0
	絶滅	0

評価理由

12地点に現存するが、生育環境が特殊で、特定の山域に分布が偏る。園芸採取に加えて生育地は踏み付けの影響を受けている。

主な危険要因

特殊分布、園芸採取

登山道荒廃による踏み付けの影響がある。また、人目に付かない場所での園芸採取も危惧される。

特記事項

生育地は国立公園及び自然環境保全地域内にある。

県内分布状況

ノニガナ

種子植物・キク目
キク科

Ixeris polycephala Cass.

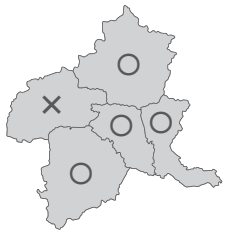
評価理由	17地点中6地点で生育が確認された。未確認の産地6地点の中にも生育している可能性は高い。河川開発や生育環境の悪化で減少傾向にあることは確かである。
主な危険要因	河川開発、自然遷移、外来種競合・交雑 平地の河川敷に多い種のため、河川工事や遷移、外来種との競合が複合して生育地の消失につながっていると考えられる。
特記事項	生育が攪乱依存的で、毎年出るところと突然現れるところがあり、日常のモニタリングが必要である。

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧II類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
17	現存	6
	不明	6
	絶滅	5

県内分布状況



カイタカラコウ

種子植物・キク目
キク科

Ligularia kaialpina Kitam.

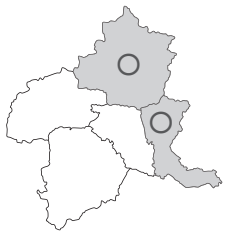
評価理由	4地点で約300個体の生育が確認された。群生地もあるが、災害を受けやすい立地にある。一方でニホンジカの嗜好性は低く、園芸の対象にはなりづらい。
主な危険要因	その他（災害） やや不安定な立地に生育し、崩落や泥流による流出の危険性がある。一部の生育地にはニホンジカが侵入しているが、嗜好性は低い。
特記事項	

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧IB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
4	現存	4
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



キバナコウリンカ

種子植物・キク目
キク科

Tephroseris furusei (Kitam.) B.Nord.

評価理由	4地点で確認されているが、石灰岩の採掘により生育地が破壊されたことに加え、一部では園芸採取や踏み付けにより減少している。
主な危険要因	園芸採取、踏み付け、石灰採掘 大きな生育地は石灰岩の採掘により失われた。一部の生育地において登山道外立ち入りに伴う踏み付けや、園芸採取の情報がある。
特記事項	最大の産地は石灰岩採掘に先立って調査が行われ、本種の存在も把握されていた。鉱区内で系統保存が行われている。

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧IB類
群馬県（2001）	絶滅危惧I類
環境省（2020）	絶滅危惧IB類

判定基準	定量簡易ACD

産地数		
4	現存	4
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

オカオグルマ

種子植物・キク目
キク科

Tephroseris integrifolia (L.) Holub subsp. *kirilowii* (Turcz. ex DC.) B.Nord.

評価理由	10地点で今回確認された。過去の標本がある地点のほとんどで絶滅か現状不明だった。管理放棄や圃場整備が減少の理由である。
主な危険要因	土地造成（圃場整備）、道路工事、管理放棄 農耕地周辺に生育するため、圃場整備や管理放棄、さらに農道の整備が減少の要因となる。
特記事項	過去に記録のある地点ではほとんど再確認できなくなった。現在残存する場所は、圃場整備が小規模であった棚田か上水道施設の構内である。人間の活動と密接に結びついて生育している種と考えられる。

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	指定なし
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
24	現存	10
	不明	8
	絶滅	6

県内分布状況

リンネソウ

種子植物・マツムシソウ目
スイカズラ科

Linnaea borealis L.

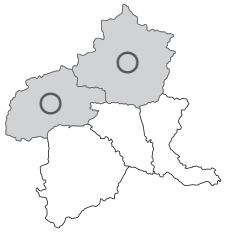
評価理由	5地点で生育が確認された。特定山域に分布が集中する傾向がある。1地点に大きい集団もあるが、全体的に遷移により減少傾向にあると考えられる。
主な危険要因	自然遷移、踏み付け 遷移によって木本が侵入しつつある生育地が多く、衰退傾向にあると考えられる。登山道沿いでは踏み付けによる被害がある。
特記事項	利根沼田地域では、以前から知られていた地点で確認ができなくなった。今回の利根沼田地域の生存情報は、これとは別の地点で得られたものである。

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧II類
群馬県（2001）	絶滅危惧I類
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易ACD

産地数		
7	現存	5
	不明	2
	絶滅	0

県内分布状況



オニヒョウタンボク

種子植物・マツムシソウ目
スイカズラ科

Lonicera vidalii Franch. et Sav.

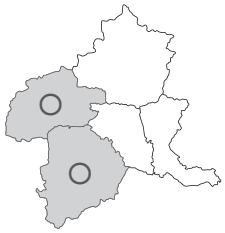
評価理由	52地点で生育が確認された。分布域は狭いが、面的に生育地が連続している。ただし、リゾート開発に伴って分布域の分断化が進行した。
主な危険要因	土地造成（その他）、道路工事、その他（防災工事） 本種の分布域とリゾート地の範囲が完全に重複し、施設や別荘の開発に伴って分布域は分断された。
特記事項	

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧II類
群馬県（2001）	準絶滅危惧
環境省（2020）	絶滅危惧II類

判定基準	定量D

産地数		
54	現存	52
	不明	2
	絶滅	0

県内分布状況



オミナエシ

種子植物・マツムシソウ目
スイカズラ科

Patrinia scabiosifolia Fisch. ex Trevir.

評価理由

65地点中36地点で確認された。過去10年間も管理放棄や草地開発、また園芸採取のために減少傾向にある。

主な危険要因

園芸採取、管理放棄、草地開発

草原の管理放棄や園芸採取によって減少している場所が多い。生育地の草地は観光地とその周辺に多く、開発の対象になりやすい。

特記事項

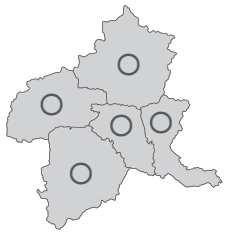
新たな生育地が発見されることもあるが、既知の生育地での個体数減や絶滅も平行して起きている。

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧II類
群馬県（2001）	準絶滅危惧
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量簡易 ACD

産地数		
65	現存	36
	不明	20
	絶滅	9

県内分布状況



トウキ

種子植物・セリ目
セリ科

Angelica acutiloba (Siebold et Zucc.) Kitag. subsp. *acutiloba*

評価理由

4地点で生育が確認されている。生育環境は特殊であるが、人為的な影響は及びにくく、比較的安定している。

主な危険要因

薬用採取、特殊分布

生育立地は限定され脆弱性が高いが、その反面人による採取が困難な場所に多く、採取を免れている側面がある。

特記事項

本県では南西部の岩場の草地に生育するものをトウキにあててきた。しかし、葉の形や草丈は、北部の亜高山帯に分布する変種ミヤマトウキと連続する。他県でも両者の差違は微妙で、トウキとされる植物はミヤマトウキの変異に含まれる可能性が高い。しかし、今回は、従来の見解に従い、トウキのみを独自に評価した。

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧II類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定性

産地数		
4	現存	4
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況

ホタルサイコ

種子植物・セリ目
セリ科

Bupleurum longiradiatum Turcz. var. *elatius* (Koso-Pol.) Kitag.

評価理由

16地点中11地点で生育が確認された。1000個体近い大きな集団が2地点から確認されたが、それ以外では小規模で衰退傾向にある。

主な危険要因

管理放棄、土地造成（その他）、その他（植林）

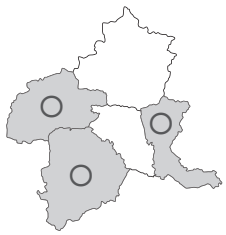
管理放棄による草地の二次遷移の進行に伴って減少している場所が多い。一部では園地整備やカラマツ植林による被陰のために減少した。

特記事項

今回の調査において、前回までの調査で不明とされた地点に大規模な集団が発見されたため、評価の見直しを行った。

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県（2018）	
群馬県（2012）	絶滅危惧IB類
群馬県（2001）	指定なし
環境省（2020）	指定なし

判定基準	定量D

産地数		
16	現存	11
	不明	1
	絶滅	4

県内分布状況